

選挙に係る市民意識調査結果報告書

神 栖 市 選 挙 管 理 委 員 会

1 目的

近年、当市における選挙投票率は極めて低く、令和3年度に執行した衆議院議員総選挙では県内最下位、神栖市長選挙では歴代2番目に低い投票率となった。

この結果を受け、市選挙管理委員会では、神栖市長選挙時の有権者5,000人を対象に意識調査を実施した。これは、低下傾向にある近年の投票率について、要因を分析するとともに、当市における有権者特性を把握することで、効果的な選挙啓発活動を行い、投票率向上に寄与することを目的としている。

2 選挙の投票率

令和3年度においては3つの選挙を執行した。

	全国平均	県平均	神栖市（県内順位）
茨城県知事選挙	—	35.02%	27.37%（43位／44市町村中）
衆議院議員総選挙	55.93%	52.54%	44.19%（44位／44市町村中）
神栖市長選挙	—	—	49.35%

3 調査概要

- （1）調査対象者 神栖市長選挙当日有権者
- （2）調査期間 令和3年12月1日から12月31日まで（1か月間）
- （3）調査項目 19問
- （4）調査票 別記のとおり
- （5）回答方法 返信用封筒を利用した封書による回答
インターネットによる回答
- （6）周知方法 調査対象者のうち5,000人を無作為抽出し、回答依頼書を郵送

4 回答者数

2,045人（回答率：40.9%）

5 分析の手法

各質問別の単純集計、併せて年齢層別、投票の有無について、他の質問とクロス集計することにより、有権者の特性や傾向を分析した。

6 集計結果の表記

・数値の端数処理

回答比率等について、小数点以下第2位を四捨五入して小数点以下第1位までを表記した。そのため、比率の合計が100.0とならない場合がある。

・回答選択肢の表記

本文や図表中の回答選択肢は、語句を簡略化している場合がある。

- ・図表中の表記

比率の高い数値のみ表記し、「わからない」や「無記入」といった回答については、割愛している場合がある。

- ・年齢未記入者の扱い

図表中、年齢未記入者の回答については、全体の集計には含めているが、年齢層別の集計では表記していない。

選挙に係る市民意識調査 調査票

この調査は、市内有権者の投票行動と意識を探るため、実施するものです。

年齢要件 あなたの満年齢をお尋ねします。

- ☐ 18歳または19歳
- ☐ 20歳代
- ☐ 30歳代
- ☐ 40歳代
- ☐ 50歳代
- ☐ 60歳以上

住所要件 現在どちらにお住まいですか。

- ☐ 神栖市内
- ☐ 茨城県内（神栖市外）
- ☐ 茨城県外

問1 あなたの性別をお尋ねします。

- ☐ 男性
- ☐ 女性
- ☐ 不回答

問2 あなたの最終学歴についてお尋ねします。

- ☐ 小学校・中学校卒（高等小学校を含む）
- ☐ 高校卒（旧制中学校を含む）
- ☐ 短大・高専・専修学校卒
- ☐ 大学・大学院卒（旧制高校、旧制専門学校を含む）
- ☐ わからない

問3 あなたの職業についてお尋ねします。

- ☐ 会社員
- ☐ 自由業・自営業
- ☐ パート・アルバイト
- ☐ 学生
- ☐ 専業主夫・専業主婦
- ☐ 無職
- ☐ その他

問4 神栖市に何年くらい住んでいますか。

- ☐ 生まれてからずっと
- ☐ 20年以上
- ☐ 10年以上20年未満
- ☐ 3年以上10年未満
- ☐ 3年未満
- ☐ 現在は神栖市に住んでいない
- ☐ わからない

問5 あなたはふだん政治についてどの程度関心を持っていますか。

- ☐ 非常に関心を持っている
- ☐ 多少は関心を持っている
- ☐ あまり関心を持っていない
- ☐ 全く関心を持っていない
- ☐ わからない

問6 現在の政治に対してどの程度満足していますか。

- ☐ 大いに満足している
- ☐ だいたい満足している
- ☐ やや不満足である
- ☐ 大いに不満足である
- ☐ わからない

問7 ふだんの選挙の投票について、次のうち、どれに近い考えを持っていますか。

- ☐ 投票することは国民の義務である
- ☐ 投票することは国民の権利であるが、棄権すべきではない
- ☐ 投票する、しないは個人の自由である
- ☐ わからない

問8 令和3年度に実施された3つの選挙について、どれくらい関心がありましたか。

該当する項目に○をつけてください。

関心度／選挙名	知事選	衆院選	市長選
非常に関心があった			
多少は関心があった			
あまり関心がなかった			
わからない			

問9 次の選挙では投票に行きましたか。該当する項目に○をつけてください。

投票の有無／選挙名	知事選	衆院選	市長選
投票に行った			
投票に行かなかった			
わからない			

【この設問は問9で「投票に行った」と回答した方のみ回答してください。】

※1つでも投票に行った選挙があれば、回答してください

問10 どの方法で投票しましたか。該当する項目に○をつけてください。

投票方法／選挙名	知事選	衆院選	市長選
選挙当日に投票をした			
期日前投票をした			
不在者投票をした			
わからない			

【この設問は問9で「投票に行った」と回答した方のみ回答してください。】

※1つでも投票に行った選挙があれば、回答してください

問11 どのような交通手段で投票所に行きましたか。該当する項目に○をつけてください。

手段／選挙名	知事選	衆院選	市長選
徒歩または自転車			
自動車またはバイク			
バスまたはタクシー			
家族または知人の送迎			
その他			
わからない			

【この設問は問9で「投票に行った」と回答した方のみ回答してください。】

※1つでも投票に行った選挙があれば、回答してください

問12 近年の投票率が極めて低い理由は何だと思いますか。（複数回答可）

- ☐ 政治に対して無関心だから
- ☐ 支持できる政党や政治家がないから
- ☐ 選挙よりも自分のこと（仕事やレジャーなど）を優先するから
- ☐ 投票しても政治は変わらないと思うから
- ☐ 投票時間が短い、または投票所が遠いから
- ☐ マスコミの事前予測を見て、投票に行く気がなくなったから
- ☐ 候補者や政党による選挙運動やPRが不足しているから
- ☐ 当選する人がほぼ決まっていると思うから
- ☐ その他
- ☐ わからない

【この設問は問9で「投票に行かなかった」と回答した方のみ回答してください。】

※1つでも投票に行かなかった選挙があれば、回答してください

問13 投票に行かなかったのは、なぜですか。（複数回答可）

- ☐ 仕事があったから
- ☐ 重要な用事（仕事を除く）があったから
- ☐ 体調がすぐれなかったから
- ☐ 投票所が遠かったから
- ☐ 投票をおこなっている場所や時間がわからなかったから
- ☐ 選挙に行く意義がわからない（選挙に行かないデメリットがわからない）から
- ☐ 政党の政策や候補者の人物像など、違いがよくわからなかったから
- ☐ 適当な候補者や政党がなかったから
- ☐ 今の政治を変える必要がないと思ったから
- ☐ その他
- ☐ わからない

【この設問は問9で「投票に行かなかった」と回答した方のみ回答してください。】

※1つでも投票に行かなかった選挙があれば、回答してください

問14 今後の選挙についての意向を教えてください。

- ☐ 今後も毎回投票に行こうと思う
- ☐ できるだけ投票に行こうと思う
- ☐ 関心が持てる選挙にだけ投票に行こうと思う
- ☐ 積極的に投票に行こうとは思わない
- ☐ わからない

【ここからは全員の方が回答してください。】

問15 各選挙では、公(告)示日の翌日から投票日前日まで「期日前投票」をおこなっていました。神栖市役所や波崎総合支所では、その間、午前8時半から午後8時まで期日前投票をすることができたことを知っていましたか。

- ☐ 知っていた
- ☐ 知らなかった

問16 神栖市で行う選挙では、投票日の投票所の閉鎖時刻は午後6時でしたが、何時まで開所しているのがふさわしいと考えますか。

- ☐ 現行どおり（午後6時まで）
- ☐ 午後7時まで
- ☐ 午後8時まで
- ☐ 午後9時まで
- ☐ わからない

問17 令和3年度の選挙で総務省や都道府県、市区町村の選挙管理委員会などが「投票に参加しましょう」という呼びかけを行いました。見たり聞いたりしたものはありましたか。

(複数回答可)

- ☐ 新聞広告
- ☐ テレビスポット広告
- ☐ ラジオ放送（FMかしま など）
- ☐ 交通広告（車内・駅・バス）
- ☐ 雑誌広告（フリーペーパーを含む）
- ☐ 啓発ポスター
- ☐ 国や都道府県、市区町村の広報紙
- ☐ 市区町村などの広報車
- ☐ 候補者の選挙運動用自動車
- ☐ 街頭・イベントなどでの啓発キャンペーン
- ☐ 神栖市選挙管理委員会が作成した啓発品（標語入りクリアファイル・蛍光ペンなど）
- ☐ 立看板、広告塔、たれ幕、のぼり旗
- ☐ 電光掲示板、大型映像広告、ショッピングセンターなどでのアナウンス
- ☐ 銀行などのATM
- ☐ コンビニのレジ画面
- ☐ 国、都道府県、市区町村のホームページ、SNS（ツイッター、フェイスブックなど）
- ☐ インターネット上での広告（バナー、動画広告など）
- ☐ 選挙公報（新聞の折込・コンビニ）
- ☐ その他
- ☐ 見聞きしなかった

問18 最近の選挙結果によると、特に若年層の投票率が低くなっています。

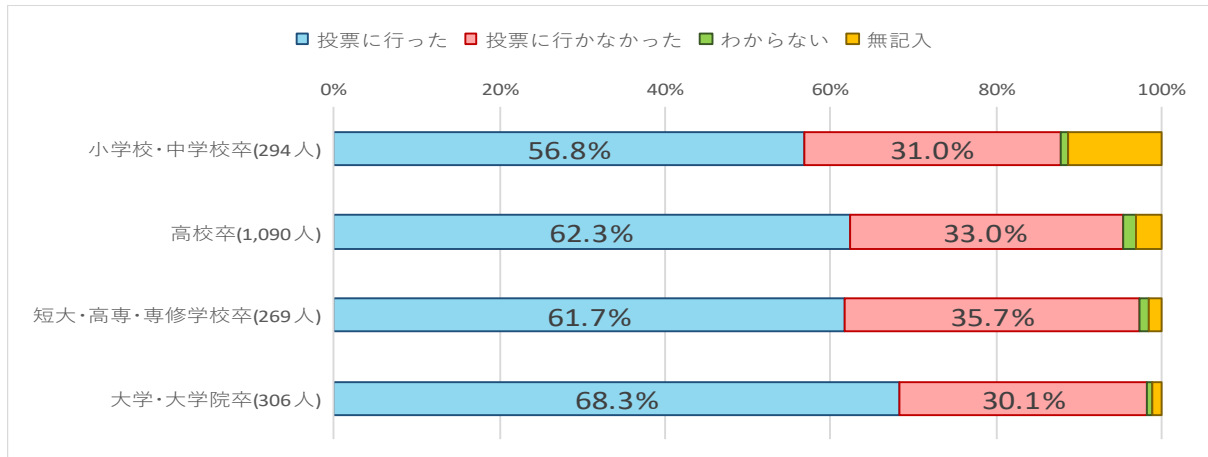
投票率アップの方策があれば、ご提案をお願いします。（自由記述）

問19 今回のアンケートへの感想・その他選挙や政治に関して何かご意見があれば記述してください。

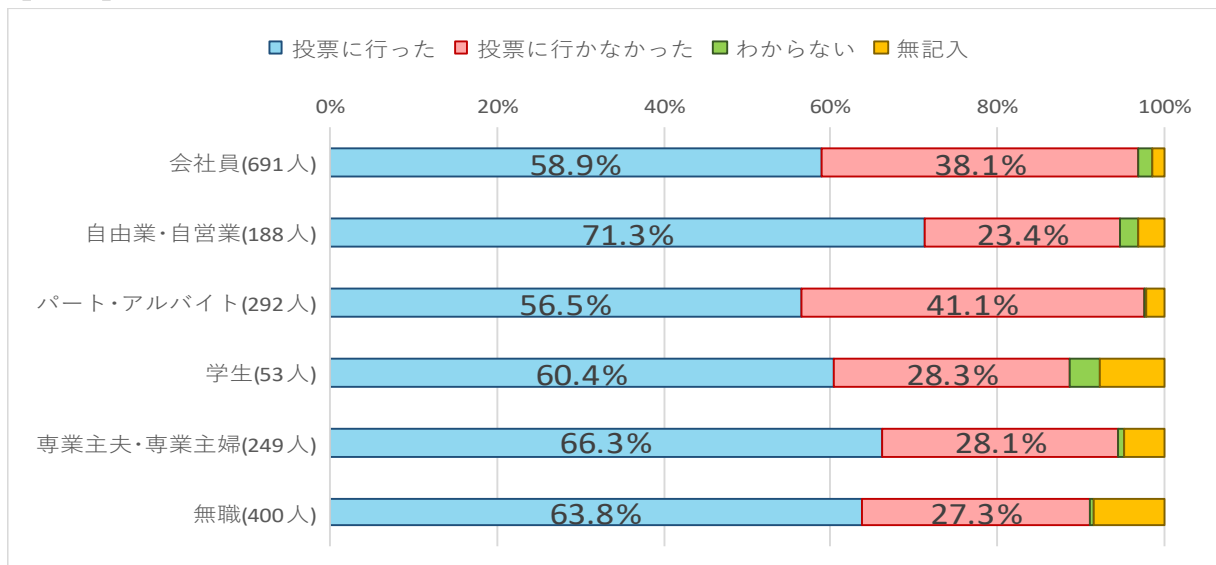
茨城県知事選挙に関する集計結果

意識調査の回答者の属性（問１～４について）

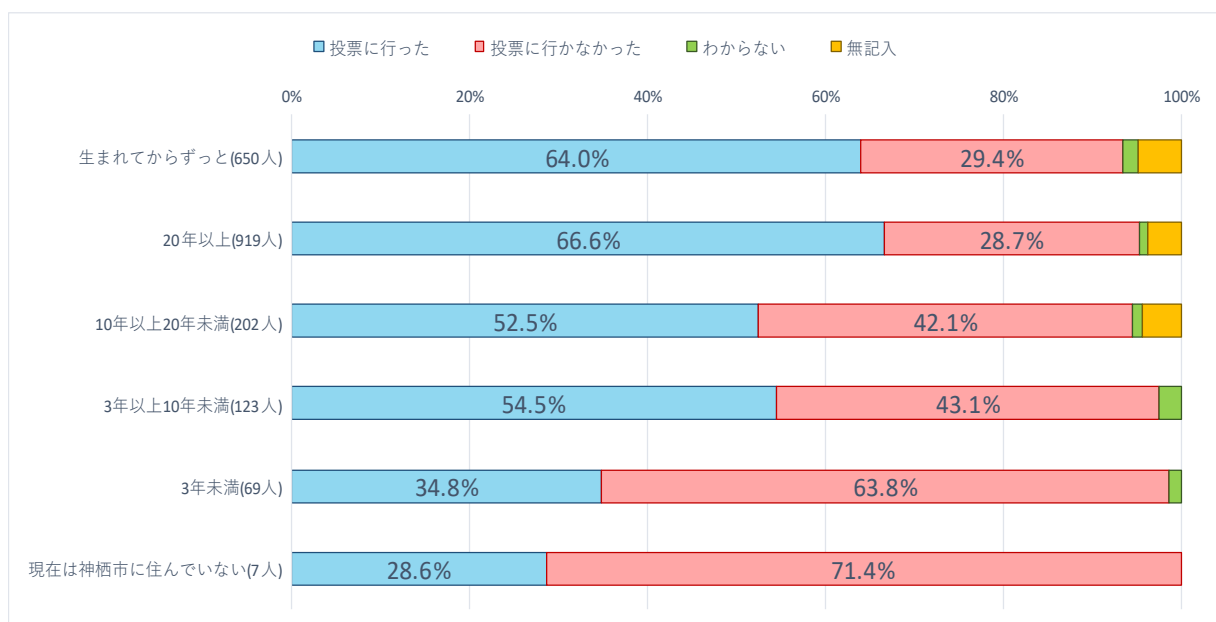
【最終学歴】



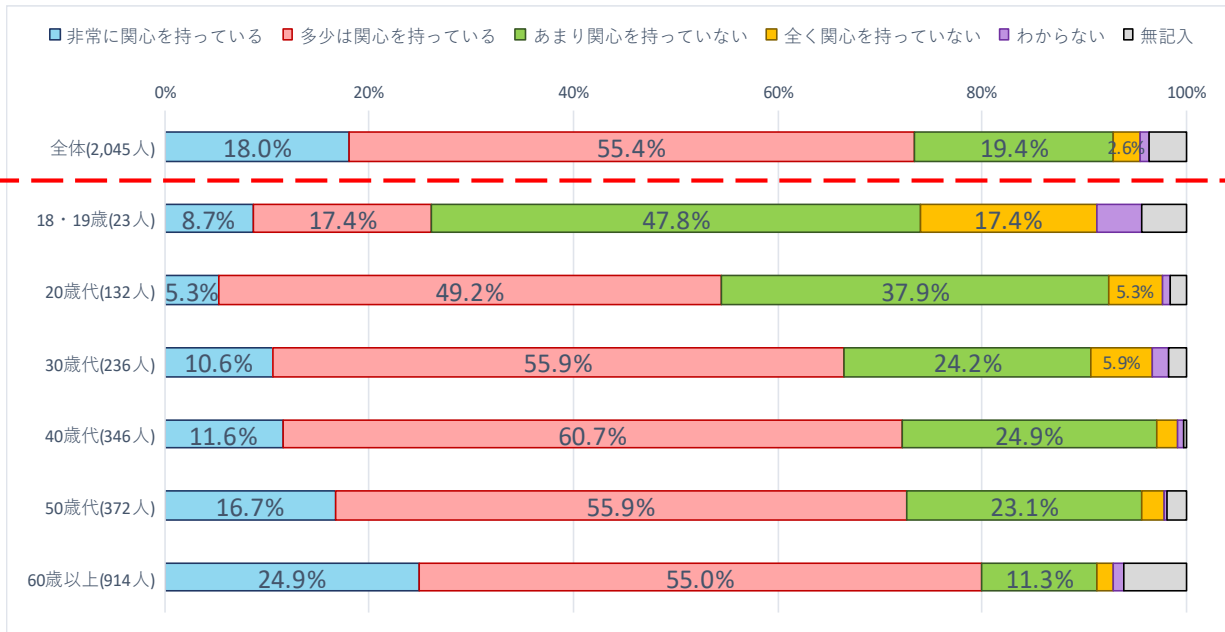
【職業】



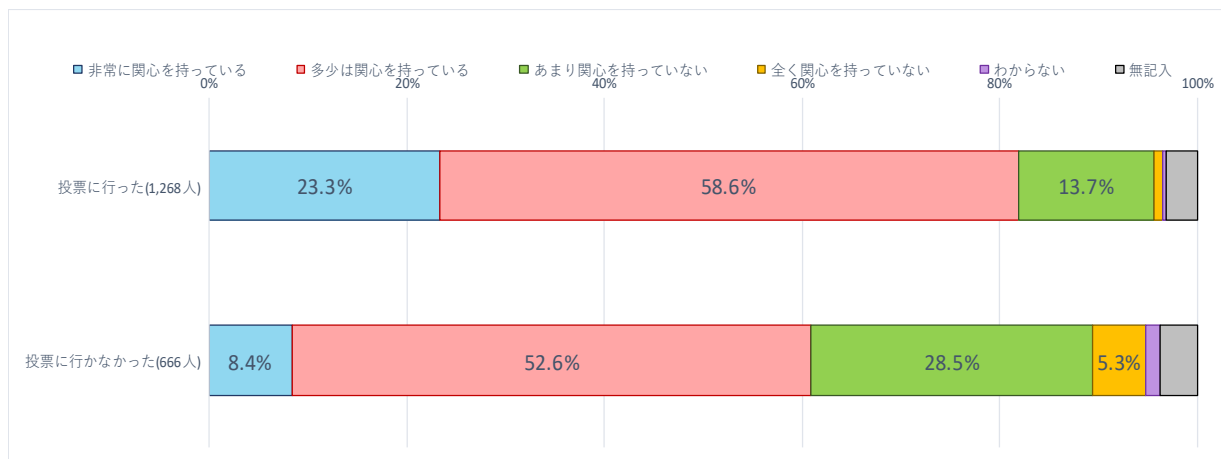
【居住年数】



【問 5】 あなたは ふだん政治についてどの程度関心を持っていますか。



【5-1】 茨城県知事選挙の投票の有無において、ふだんの政治に対する考え方

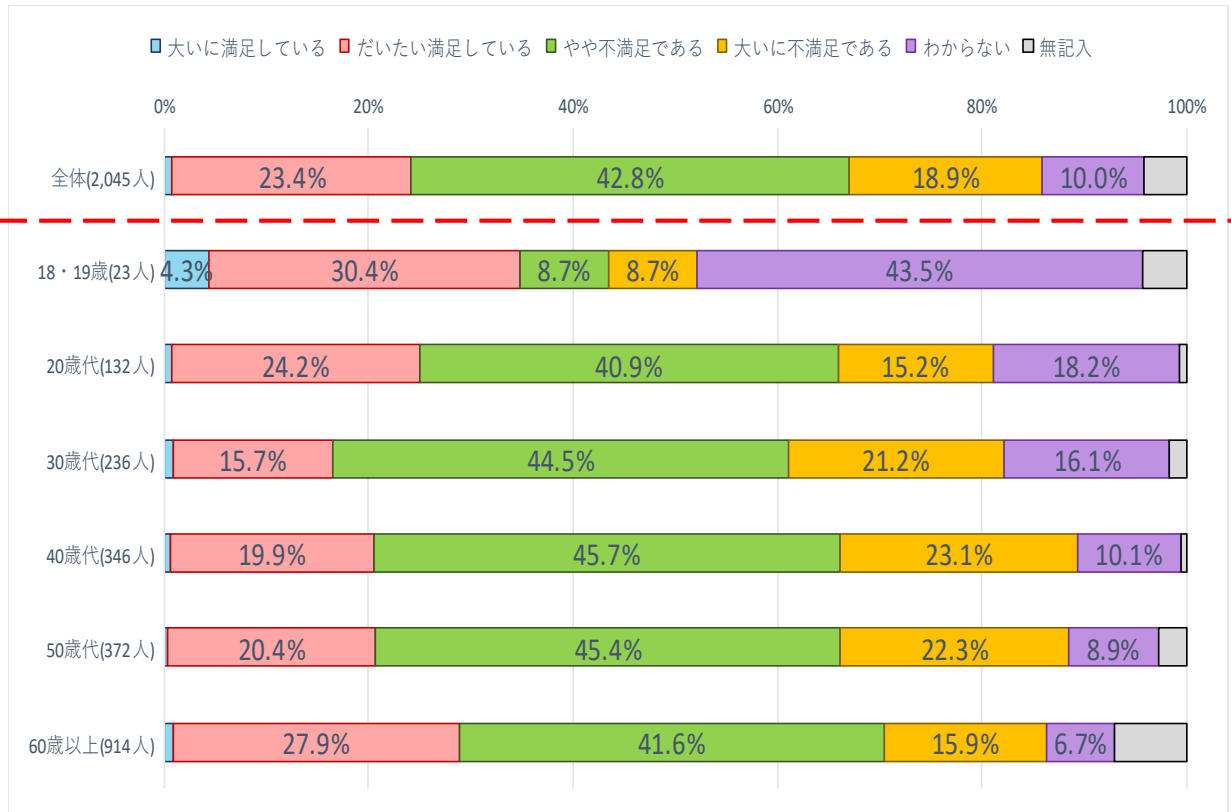


ふだん政治についてどの程度関心を持っているかについて尋ねたところ、「非常に興味を持っている」と回答したのが18.0%、「多少は関心を持っている」が55.4%、「あまり関心を持っていない」が19.4%、「全く関心を持っていない」が2.6%であった。

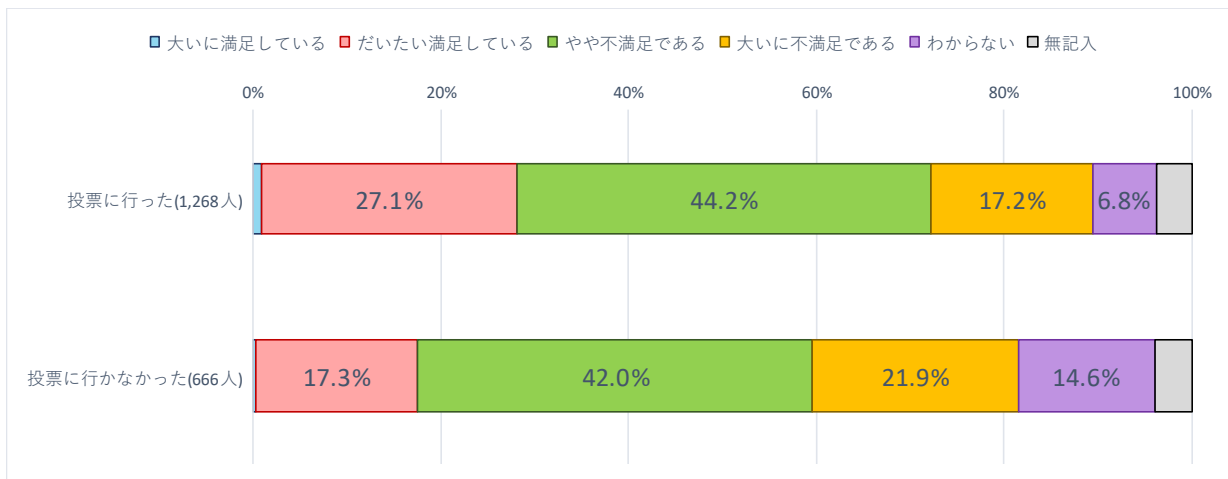
また、年齢層別でみると、20歳代以上の年齢層においては「多少は関心を持っている」割合が多いものの、年齢層が下がるにつれて「あまり関心を持っていない」、「全く関心を持っていない」割合が高くなっており、18歳・19歳については全体の6割を超えている。

投票の有無別でみると、投票に行ったと回答した人は、「非常に興味を持っている」や「多少は関心を持っている」という回答が多く、投票に行かなかったと回答した人は「多少は関心を持っている」という回答が最も多かったものの、「あまり関心を持っていない」と「全く関心を持っていない」を合わせると3割を超えている。

【問 6】 現在の政治に対してどの程度満足していますか。



【6－1】 茨城県知事選挙の投票の有無において、現在の政治に対しての満足度の違い

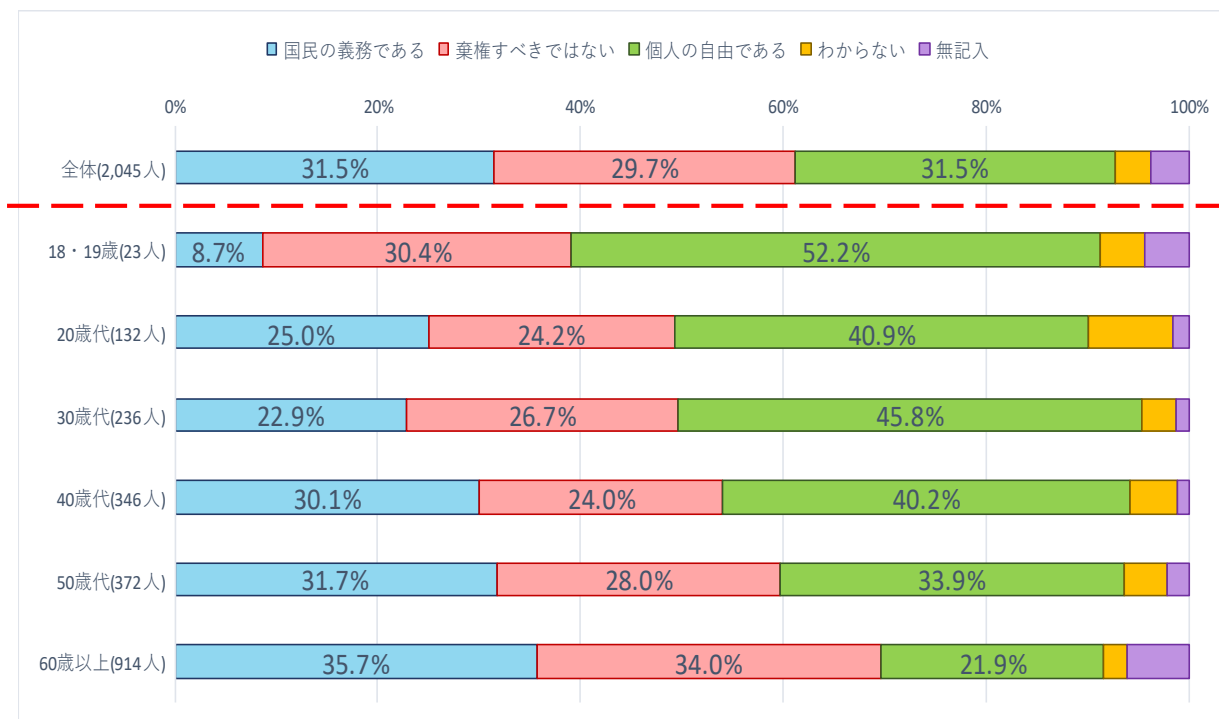


現在の政治に対してどの程度満足しているかについて尋ねたところ、「大いに満足している」と回答したのは0.8%、「だいたい満足している」が23.4%、「やや不満足である」が42.8%、「大いに不満足である」18.9%であった。

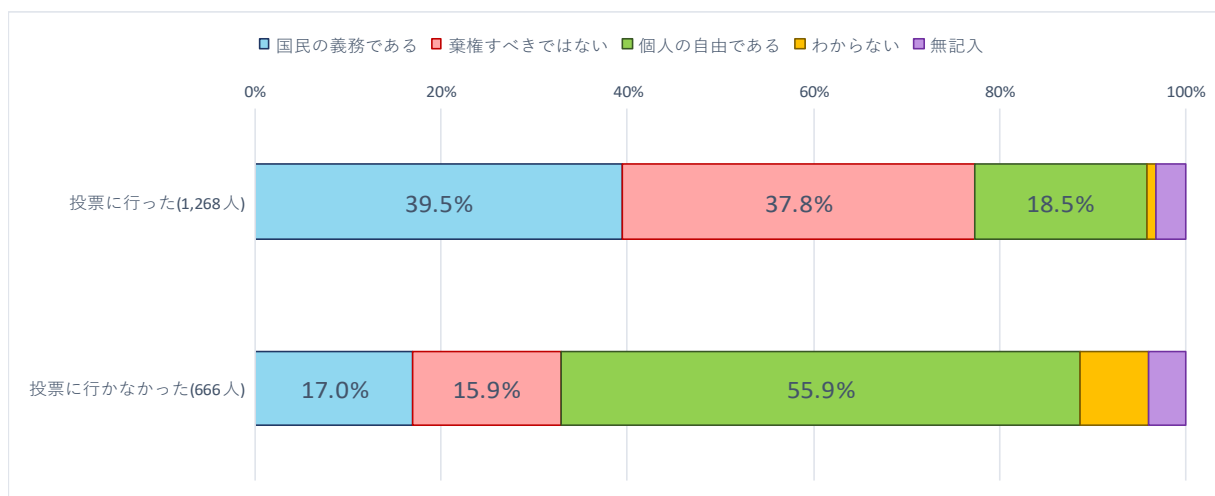
また、年齢層別でみると、18歳・19歳では「わからない」が43.5%と高く、20歳代以上の年齢層では「やや不満足である」の割合が最も高くなっている。

投票の有無別でみると、投票に行ったと回答した人、投票に行かなかったと回答した人、いずれにおいても、現在の政治に対して「やや不満足である」という回答が多く、また、「大いに不満足である」を合わせると6割を超えている。

【問 7】 ふだんの選挙の投票について、次のうち、どれに近い考えを持っていますか。



【7-1】 茨城県知事選挙の投票の有無において、投票に対する考え方の違い

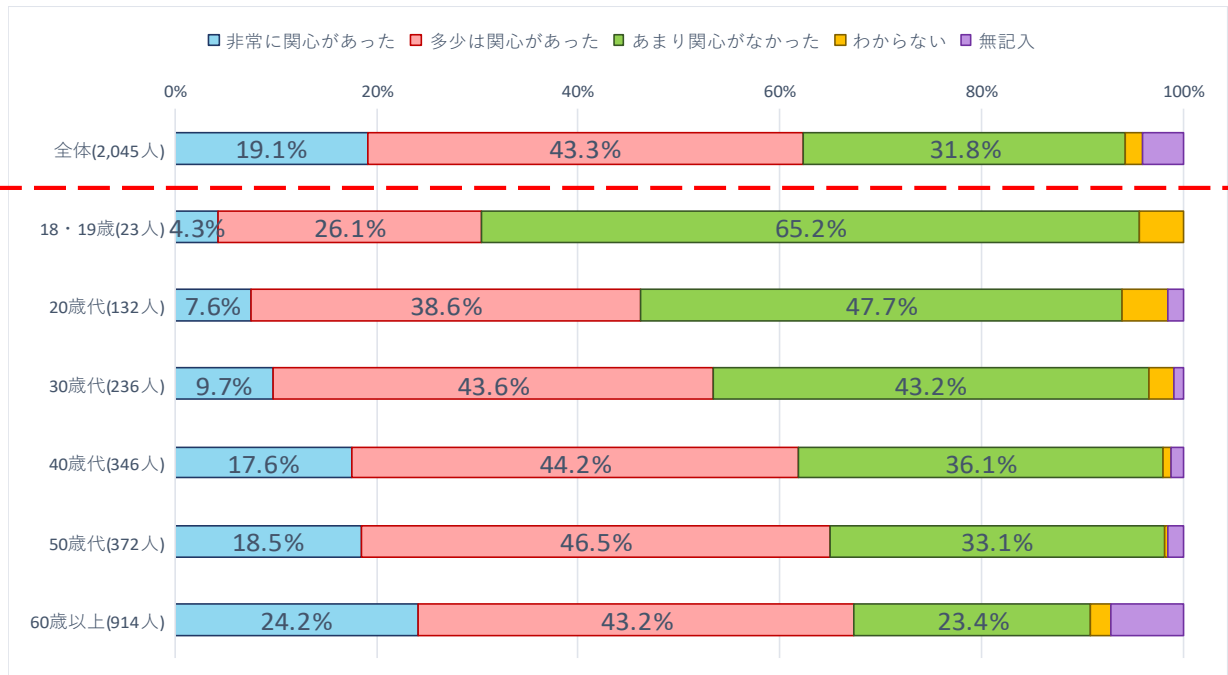


選挙の投票についての考えを尋ねたところ、「国民の義務である」と回答したのは31.5%、「棄権すべきではない」が29.7%、「個人の自由である」が31.5%であった。

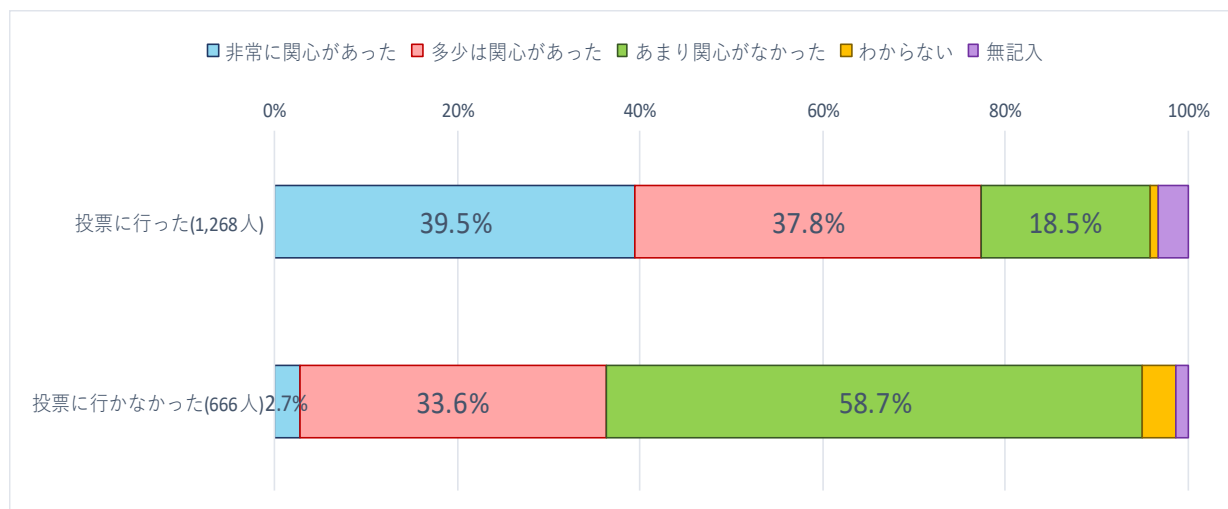
また、年齢層別でみると、「個人の自由である」と回答したのは18歳・19歳の割合が最も高く、次いで30歳代の割合が高くなっており、そこから年齢層が上がるにつれて割合が低くなる。一方、「国民の義務である」「棄権すべきではない」と回答する割合が年齢層が上がるにつれて高くなっている。

投票の有無別でみると、投票に行ったと回答した人は、「国民の義務である」や「棄権すべきではない」という考えが多く、投票に行かなかったと回答した人は、「個人の自由である」という考えが多かった。

【問 8】 令和 3 年 9 月 5 日に執行した茨城県知事選挙について、どれくらい関心がありましたか。



【8－1】 茨城県知事選挙の投票の有無において、選挙に関する関心度の違い

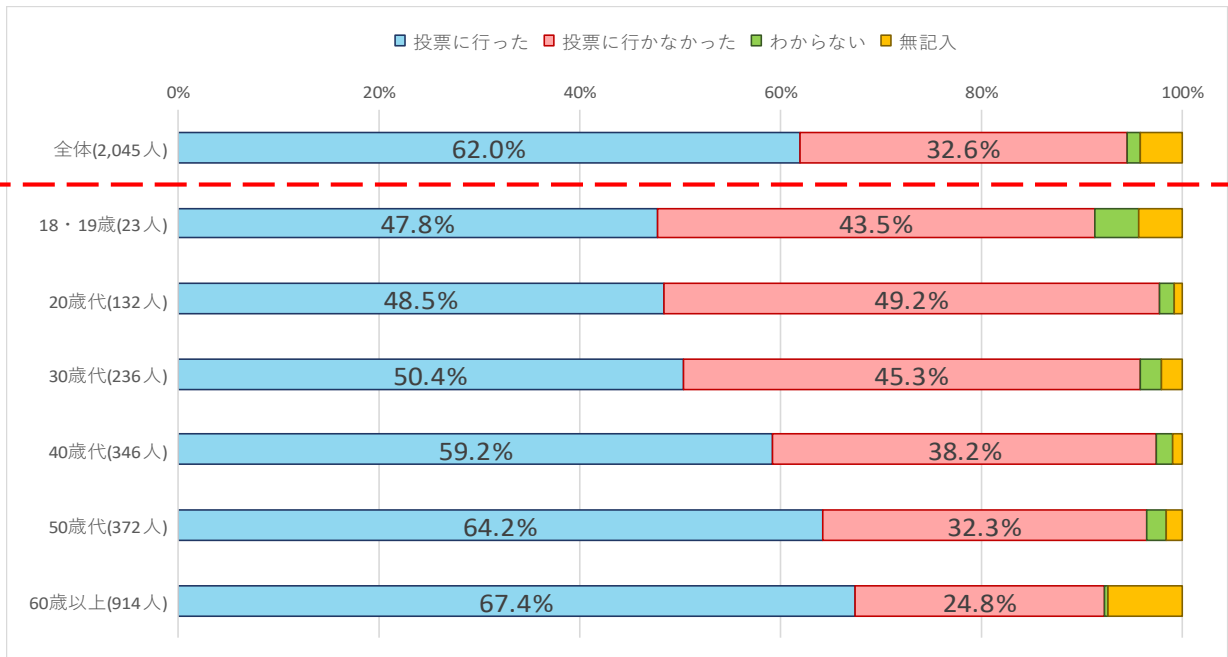


令和 3 年 9 月 5 日執行の茨城県知事選挙は、どれくらい関心があったか尋ねたところ、「非常に関心があった」と回答したのは 19.1%、「多少は関心があった」が 43.3%、「あまり関心がなかった」が 31.8%であった。

また、年齢層別でみると、「非常に関心があった」や「多少は関心があった」と回答した人は、年齢層が上がるにつれて割合が高くなっている。

投票の有無別でみると、投票に行ったと回答した人では、「非常に関心があった」と「多少は関心があった」を合わせると 77.3%と多く、投票に行かなかったと回答した人では、「あまり関心がなかった」が 58.7%と最も多かった。

【問 9】 茨城県知事選挙では投票に行きましたか。

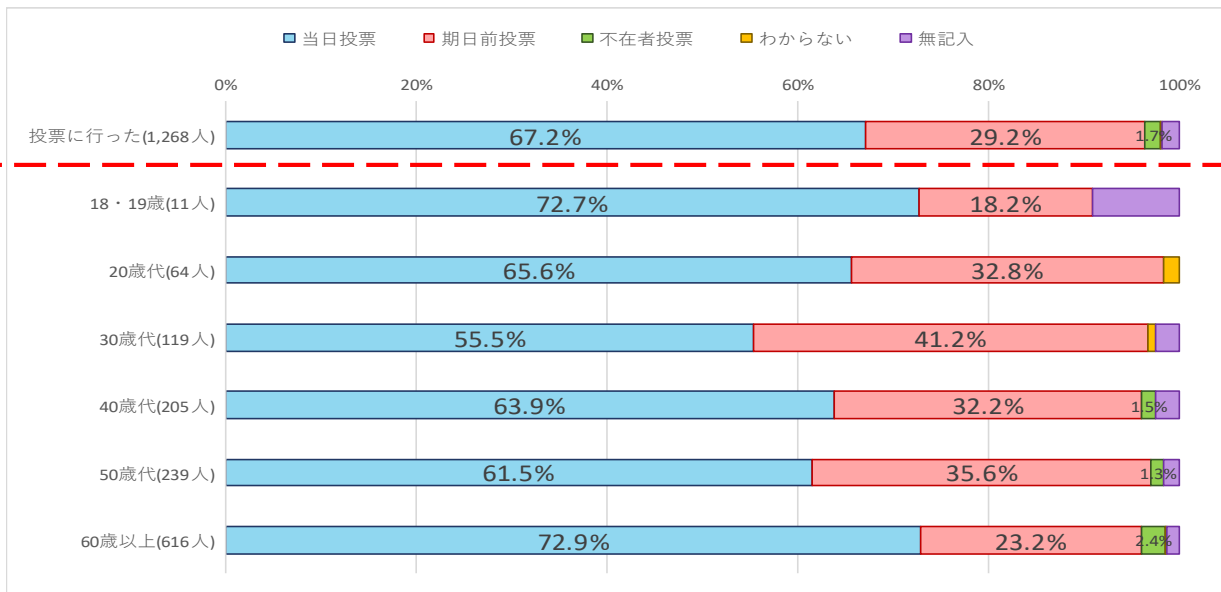


茨城県知事選挙の投票の有無について尋ねたところ、「投票に行った」と回答したのは62.0%、「投票に行かなかった」が32.6%であった。

また、年齢層別でみると、「投票に行った」と回答した人は年齢層が上がるにつれて割合が高かった。

【問 10】 茨城県知事選挙では、どの方法で投票しましたか。

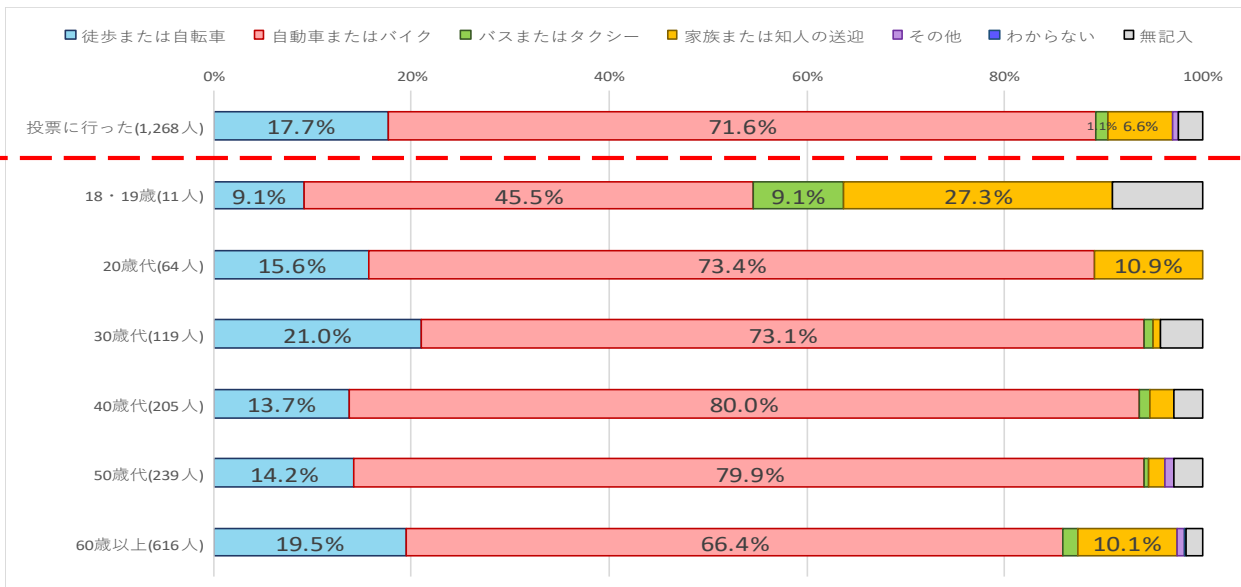
※問 9 で茨城県知事選挙において「投票に行った」と回答した人のみ回答



「投票に行った」と回答した人に対して、今回の選挙の投票方法について尋ねたところ、「当日投票」と回答したのは67.2%、「期日前投票」が29.2%、「不在者投票」が1.7%であった。また、年齢層別でみると、20歳代から50歳代までは、「期日前投票」とした回答が、他の年齢層に比べて多かった。

【問 11】 どのような交通手段で投票所に行きましたか。

※問 9 で茨城県知事選挙において「投票に行った」と回答した人のみ回答



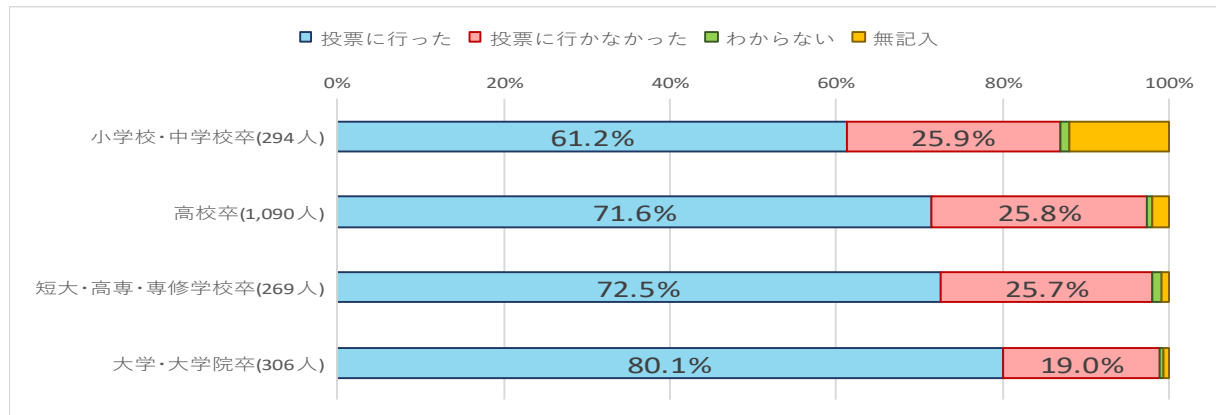
「投票に行った」と回答した人に対して、今回の選挙の投票所への交通手段について尋ねたところ、「徒歩または自転車」と回答したのは17.7%、「自動車またはバイク」が71.6%、「バスまたはタクシー」が1.1%、「家族または知人の送迎」が6.6%であった。

また、年齢層別でみると、どの年齢層においても「自動車またはバイク」と回答した人が最も多いものの、18歳・19歳においては、他の年齢層に比べ「バスまたはタクシー」や「家族または知人の送迎」が多かった。60歳以上においては、「自動車またはバイク」の割合が他の年齢層に比べ低く、「徒歩または自転車」や「家族または知人の送迎」の割合が高くなっている。

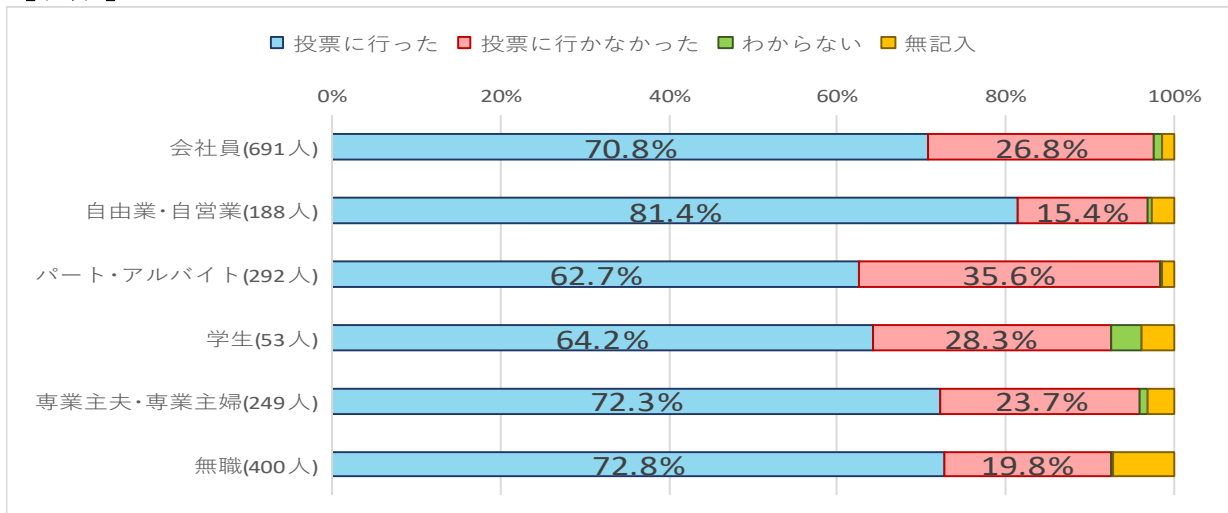
衆議院議員総選挙に関する集計結果

意識調査の回答者の属性（問１～４について）

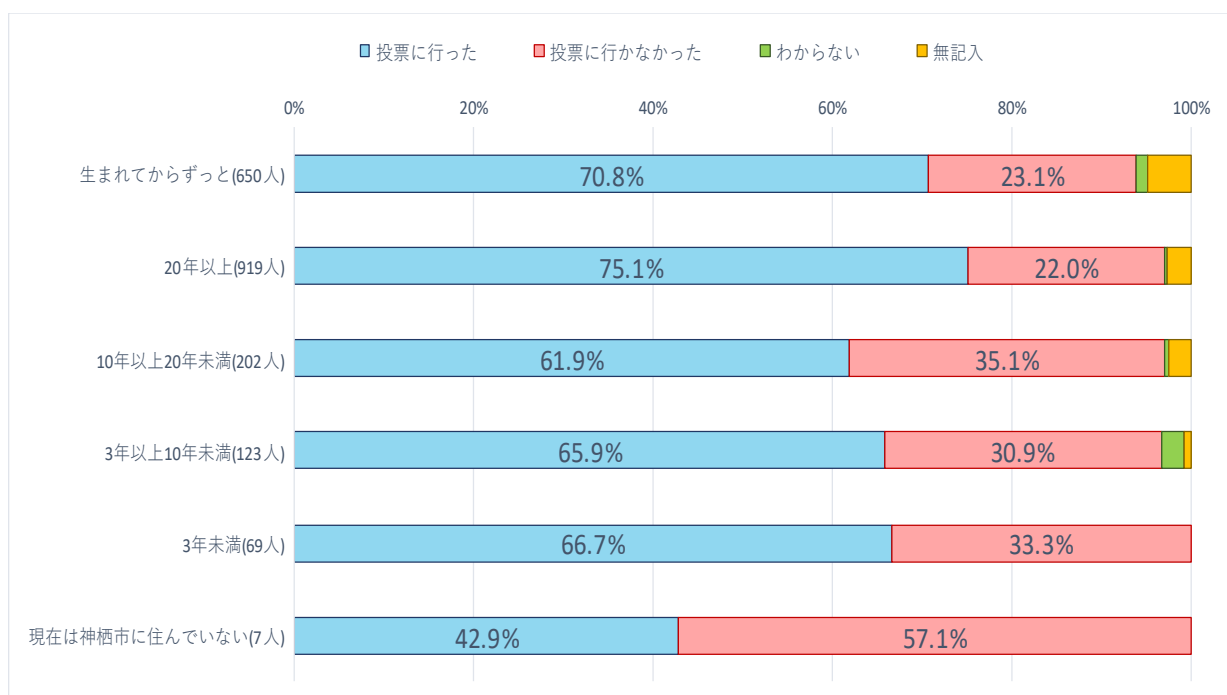
【最終学歴】



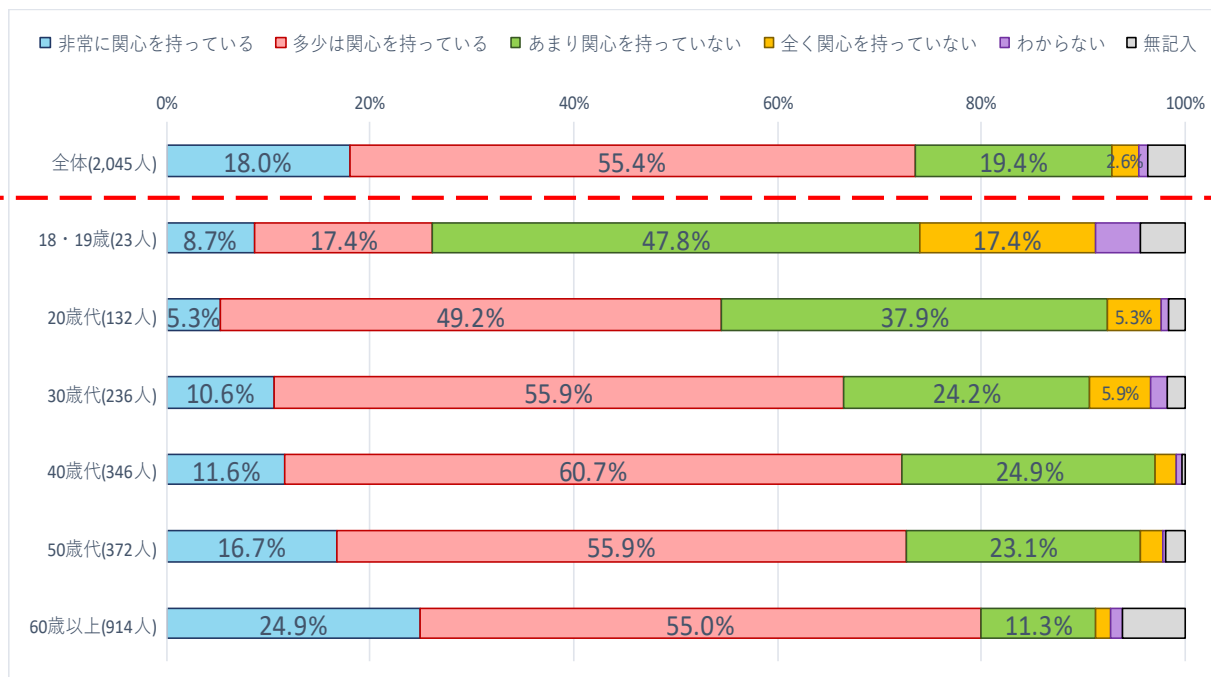
【職業】



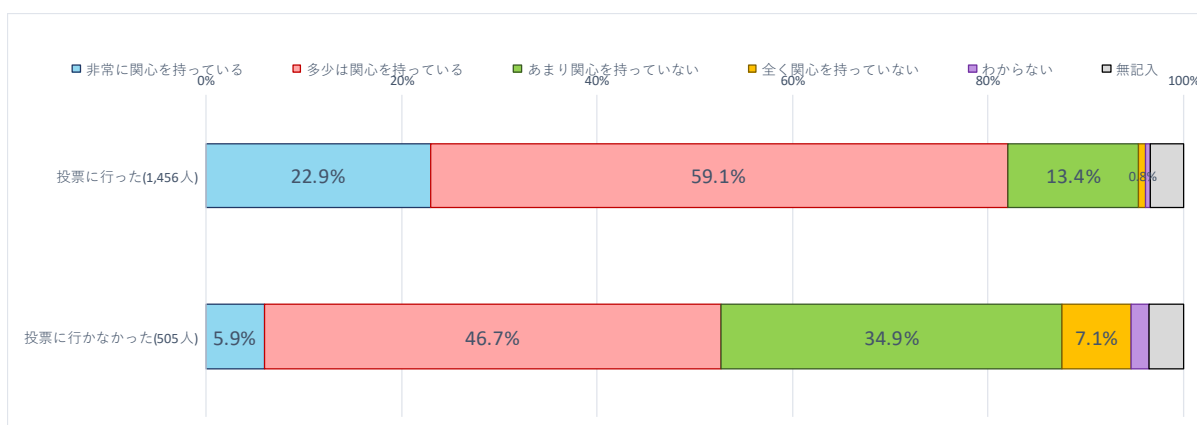
【居住年数】



【問 5】 あなたは ふだん政治についてどの程度関心を持っていますか。



【５－２】 衆議院議員総選挙の投票の有無において、ふだんの政治に対する考え方

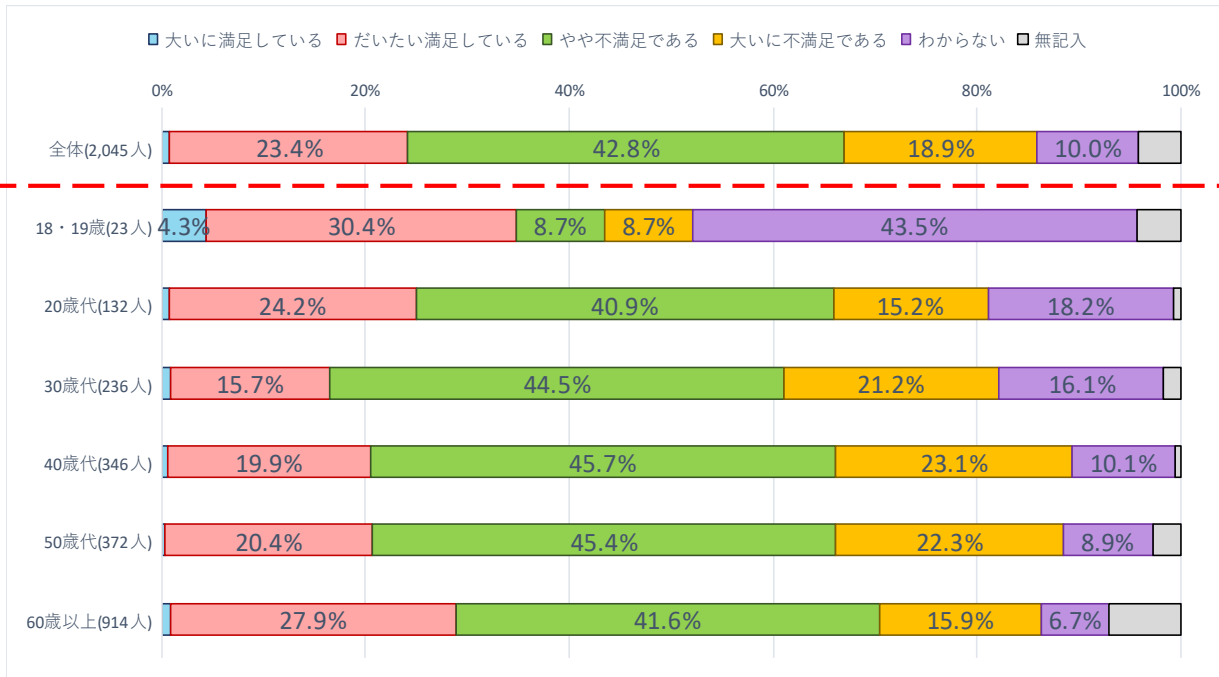


ふだん政治についてどの程度関心を持っているかについて尋ねたところ、「非常に興味を持っている」と回答したのが18.0%、「多少は関心を持っている」が55.4%、「あまり関心を持っていない」が19.4%、「全く関心を持っていない」が2.6%であった。

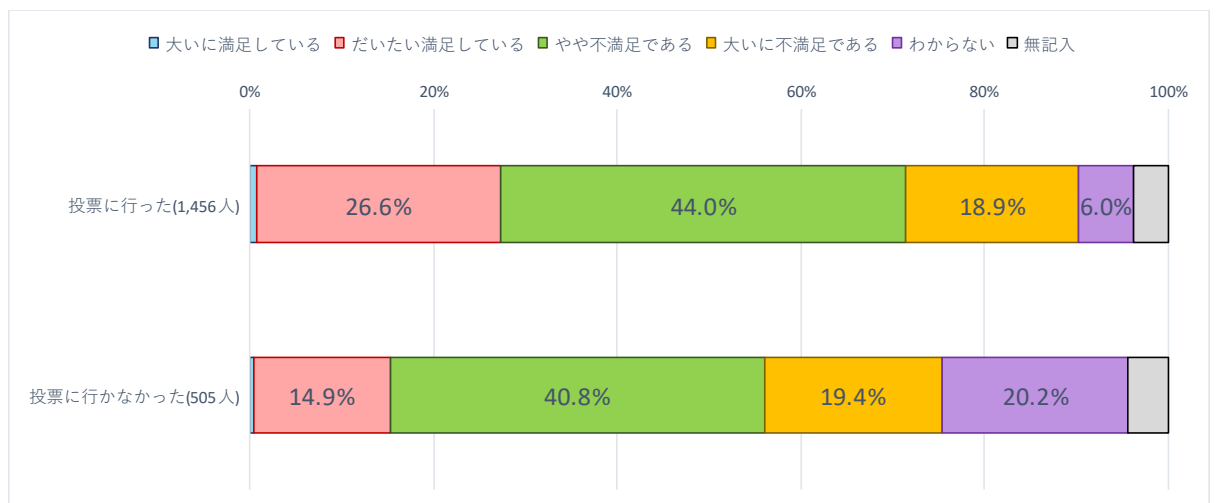
また、年齢層別でみると、20歳代以上の年齢層においては「多少は関心を持っている」割合が多いものの、年齢層が下がるにつれて「あまり関心を持っていない」、「全く関心を持っていない」割合が高くなっており、18歳・19歳については全体の6割を超えている。

投票の有無別でみると、投票に行ったと回答した人は、「非常に興味を持っている」や「多少は関心を持っている」という回答が多く、投票に行かなかったと回答した人は「多少は関心を持っている」という回答が最も多かったものの、「あまり関心を持っていない」と「全く関心を持っていない」を合わせると4割を超えている。

【問 6】 現在の政治に対してどの程度満足していますか。



【6－2】 衆議院議員総選挙の投票の有無において、現在の政治に対しての満足度の違い

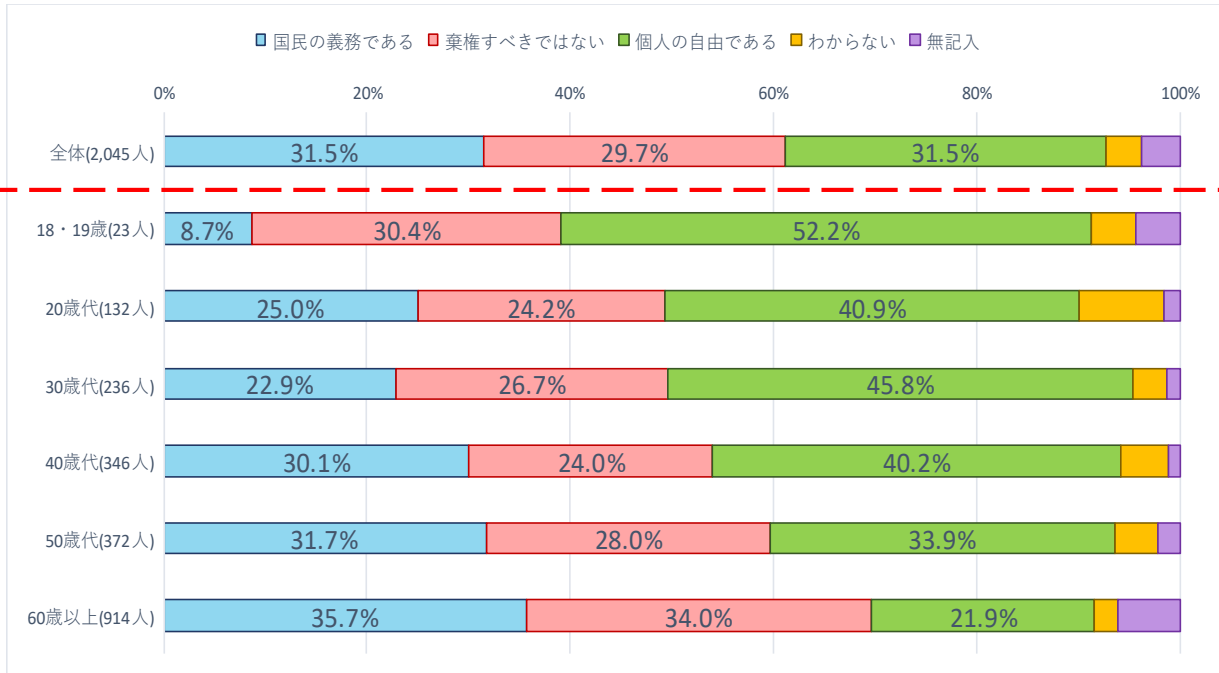


現在の政治に対してどの程度満足しているかについて尋ねたところ、「大いに満足している」と回答したのは0.8%、「だいたい満足している」が23.4%、「やや不満足である」が42.8%、「大いに不満足である」18.9%であった。

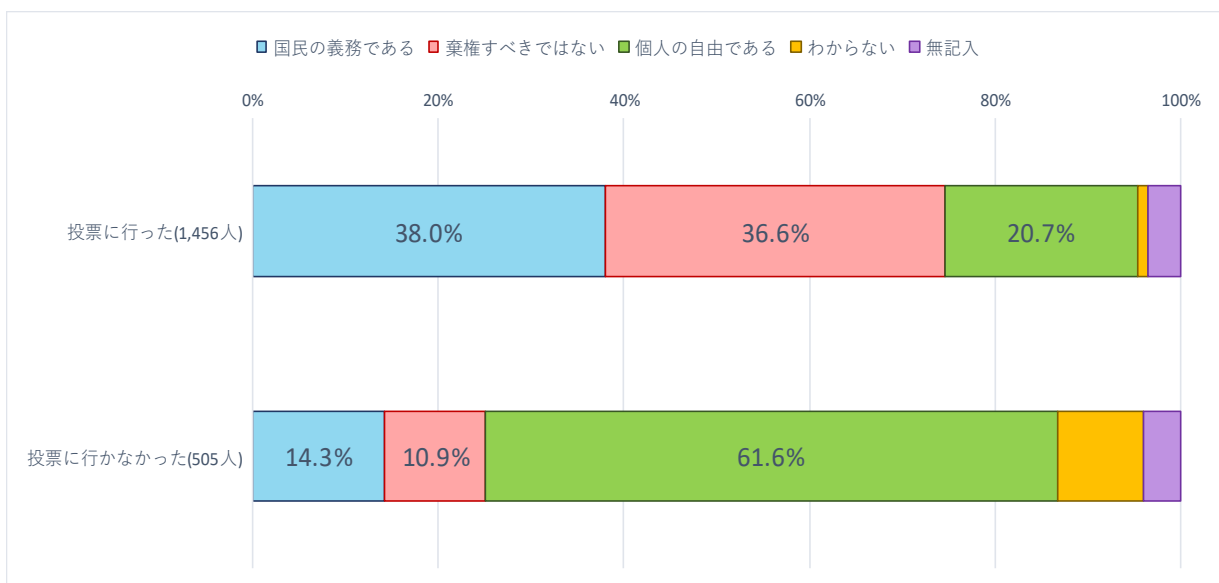
また、年齢層別でみると、18歳・19歳では「わからない」が43.5%と高く、20歳代以上の年齢層では「やや不満足である」の割合が最も高くなっている。

投票の有無別でみると、投票に行ったと回答した人、投票に行かなかったと回答した人、いずれにおいても、現在の政治に対して「やや不満足である」という回答が多く、また、「大いに不満足である」を合わせると6割を超えている。

【問 7】 ふだんの選挙の投票について、次のうち、どれに近い考えを持っていますか。



【7-2】 衆議院議員総選挙の投票の有無において、投票に対する考え方の違い

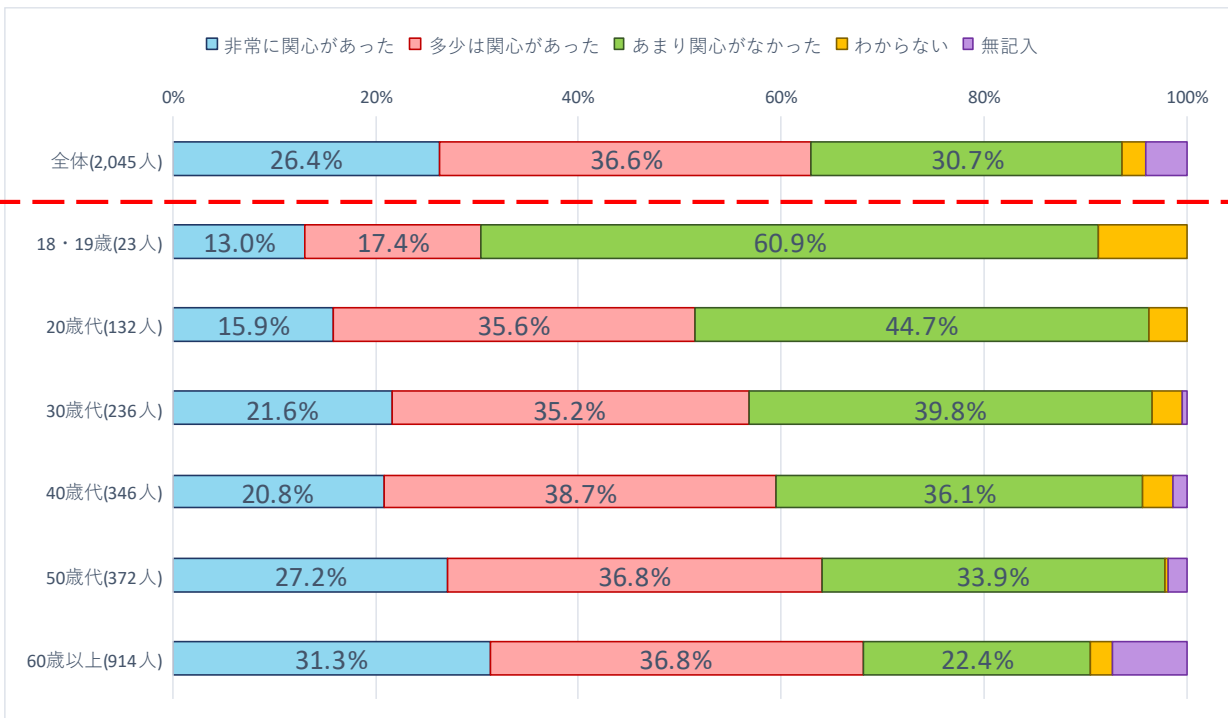


選挙の投票についての考えを尋ねたところ、「国民の義務である」と回答したのは31.5%、「棄権すべきではない」が29.7%、「個人の自由である」が31.5%であった。

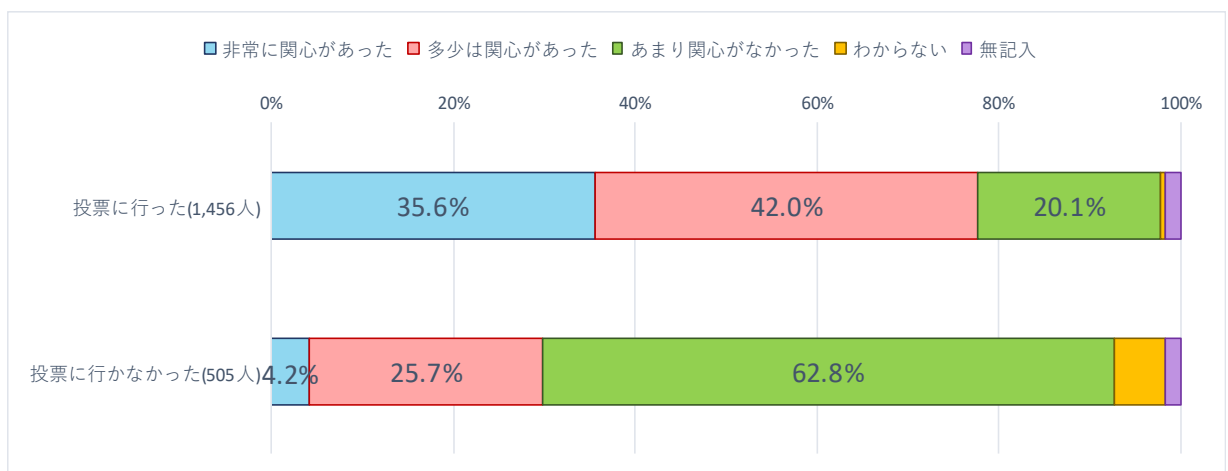
また、年齢層別でみると、「個人の自由である」と回答したのは18歳・19歳の割合が最も高く、次いで30歳代の割合が高くなっており、そこから年齢層が上がるにつれて割合が低くなる。一方、「国民の義務である」「棄権すべきではない」と回答する割合が年齢層が上がるにつれて高くなっている。

投票の有無別でみると、投票に行ったと回答した人は、「国民の義務である」や「棄権すべきではない」という考えが多く、投票に行かなかったと回答した人は、「個人の自由である」という考えが多かった。

【問 8】 令和 3 年 1 0 月 3 1 日に執行した衆議院議員総選挙について、どれくらい関心がありましたか。



【 8 - 2 】 衆議院議員総選挙の投票の有無において、選挙に関する関心度の違い

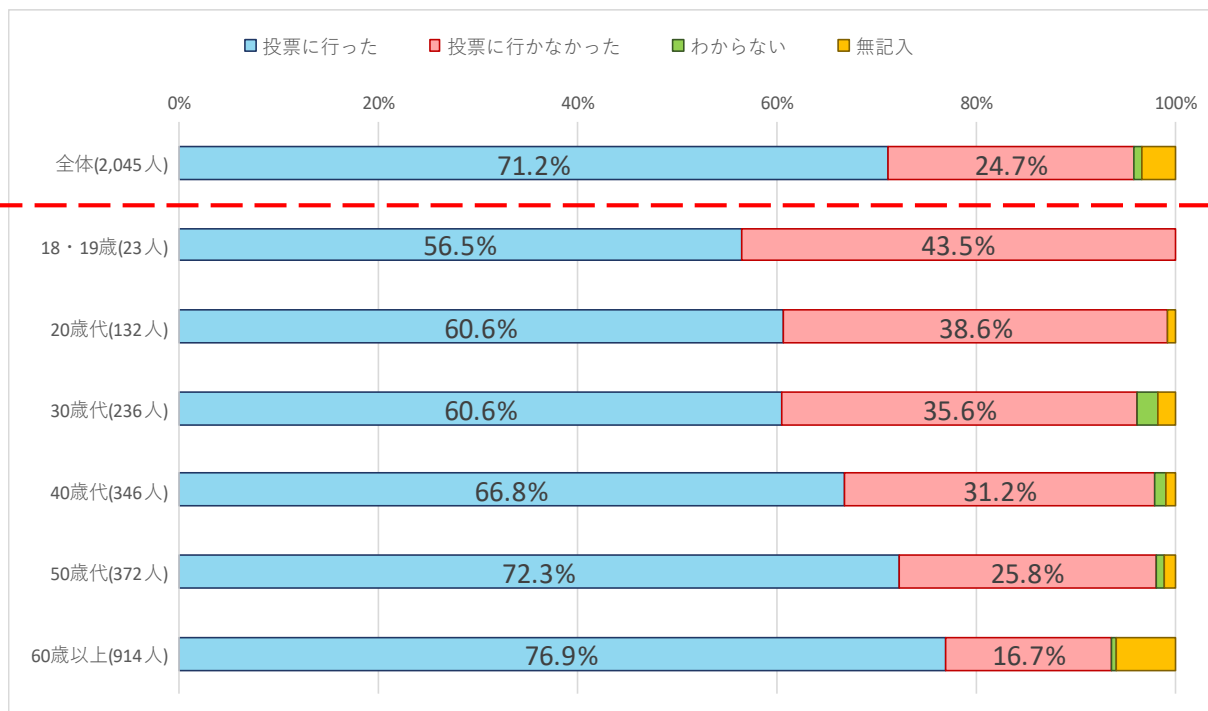


令和 3 年 1 0 月 3 1 日執行の衆議院議員総選挙は、どれくらい関心があったか尋ねたところ、「非常に関心があった」と回答したのは 2 6 . 4 % , 「多少は関心があった」が 3 6 . 6 % , 「あまり関心がなかった」が 3 0 . 7 % であった。

また、年齢層別でみると、「非常に関心があった」や「多少は関心があった」と回答した人は、年齢層が上がるにつれて割合が高くなっている。

投票の有無別でみると、投票に行ったと回答した人では、「非常に関心があった」と「多少は関心があった」を合わせると 7 7 . 6 % と多く、投票に行かなかったと回答した人では、「あまり関心がなかった」が 6 2 . 8 % と最も多かった。

【問 9】 衆議院議員総選挙では投票に行きましたか。

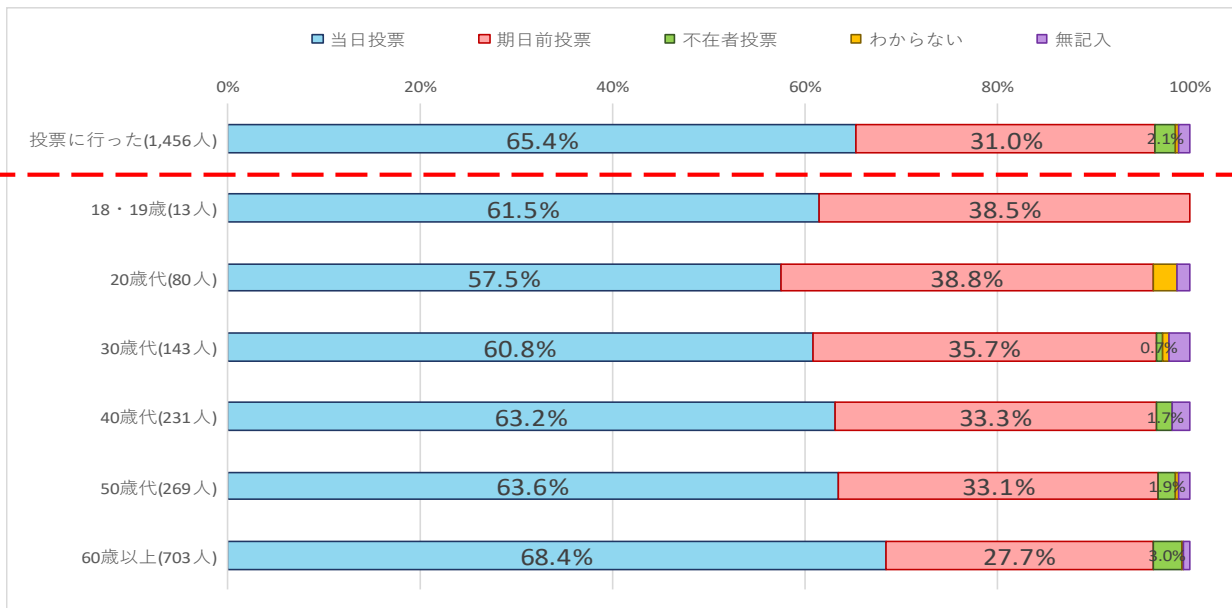


衆議院議員総選挙の投票の有無について尋ねたところ、「投票に行った」と回答したのは71.2%、「投票に行かなかった」が24.7%であった。

また、年齢層別でみると、「投票に行った」と回答した人は年齢層が上がるにつれて割合が高かった。

【問 10】 衆議院議員総選挙では、どの方法で投票しましたか。

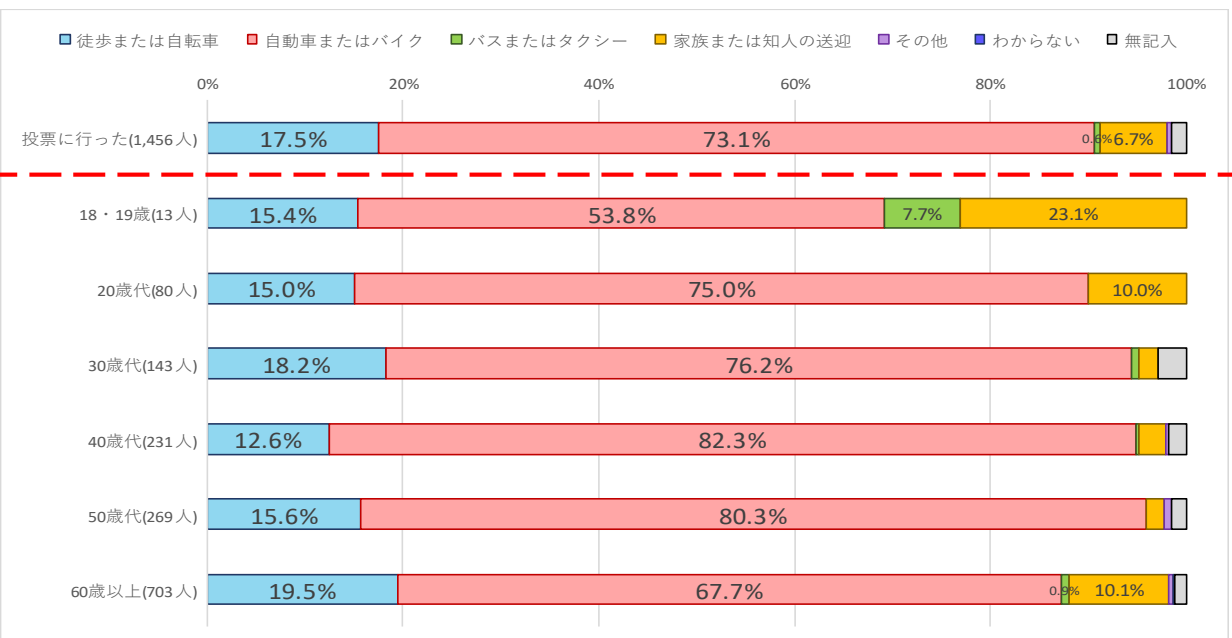
※問 9 で衆議院議員総選挙において「投票に行った」と回答した人のみ回答



「投票に行った」と回答した人に対して、今回の選挙の投票方法について尋ねたところ、「当日投票」と回答したのは65.4%、「期日前投票」が31.0%、「不在者投票」が2.1%であった。また、年齢層別でみると、全年齢層で当日投票をしたと回答した人が最も多かった。

【問 11】 どのような交通手段で投票所に行きましたか。

※問 9 で衆議院議員総選挙において「投票に行った」と回答した人のみ回答



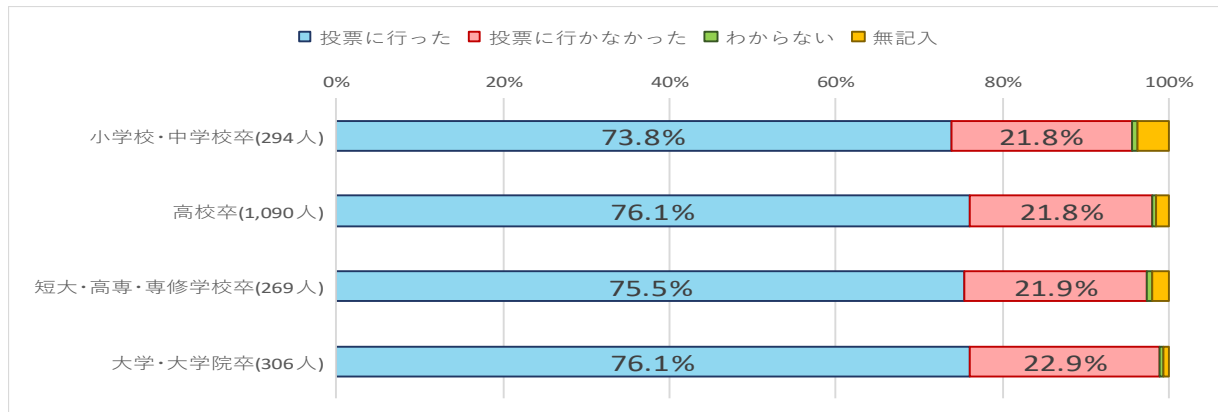
「投票に行った」と回答した人に対して、今回の選挙の投票所への交通手段について尋ねたところ、「徒歩または自転車」と回答したのは17.5%、「自動車またはバイク」が73.1%、「バスまたはタクシー」が0.6%、「家族または知人の送迎」が6.7%であった。

また、年齢層別でみると、どの年齢層においても「自動車またはバイク」と回答した人が最も多いものの、18歳・19歳においては、他の年齢層に比べ「バスまたはタクシー」や「家族または知人の送迎」が多かった。60歳以上においては、「自動車またはバイク」の割合が他の年齢層に比べ低く、「徒歩または自転車」や「家族または知人の送迎」の割合が高くなっている。

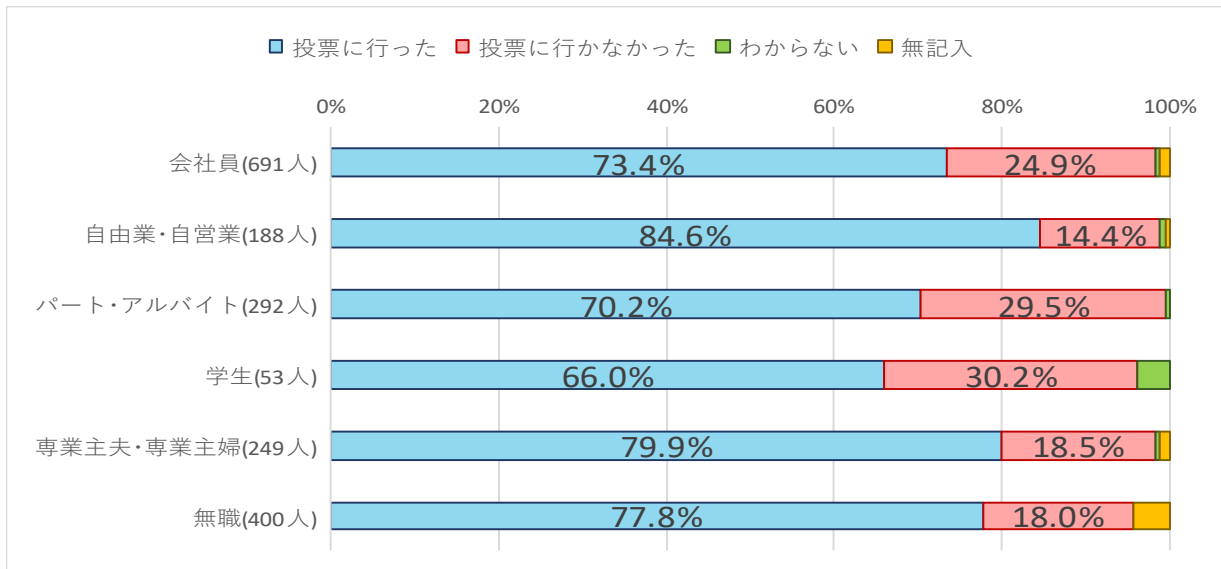
神栖市長選挙に関する集計結果

意識調査の回答者の属性（問１～４について）

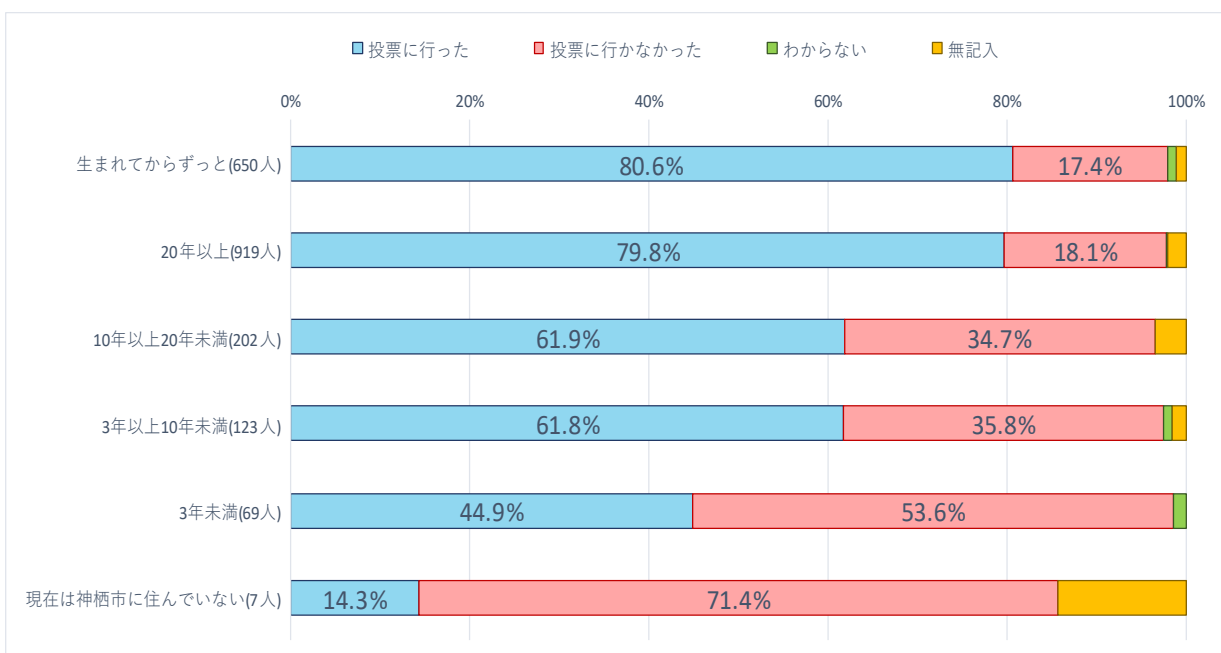
【最終学歴】



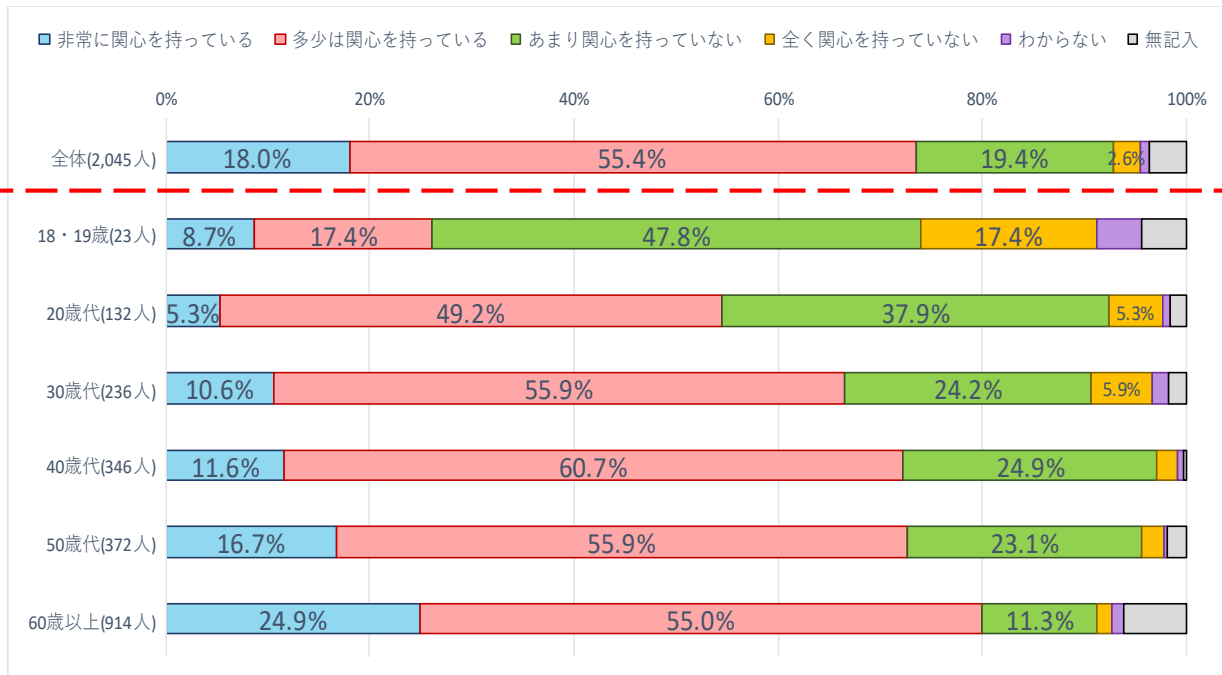
【職業】



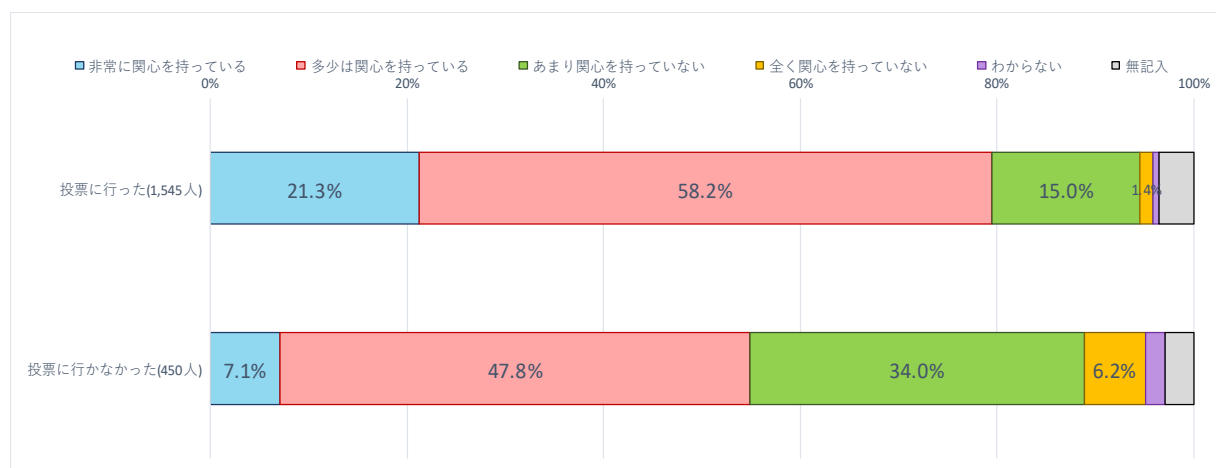
【居住年数】



【問 5】 あなたは ふだん政治についてどの程度関心を持っていますか。



【 5 - 3 】 神栖市長選挙の投票の有無において、ふだんの政治に対する考え方

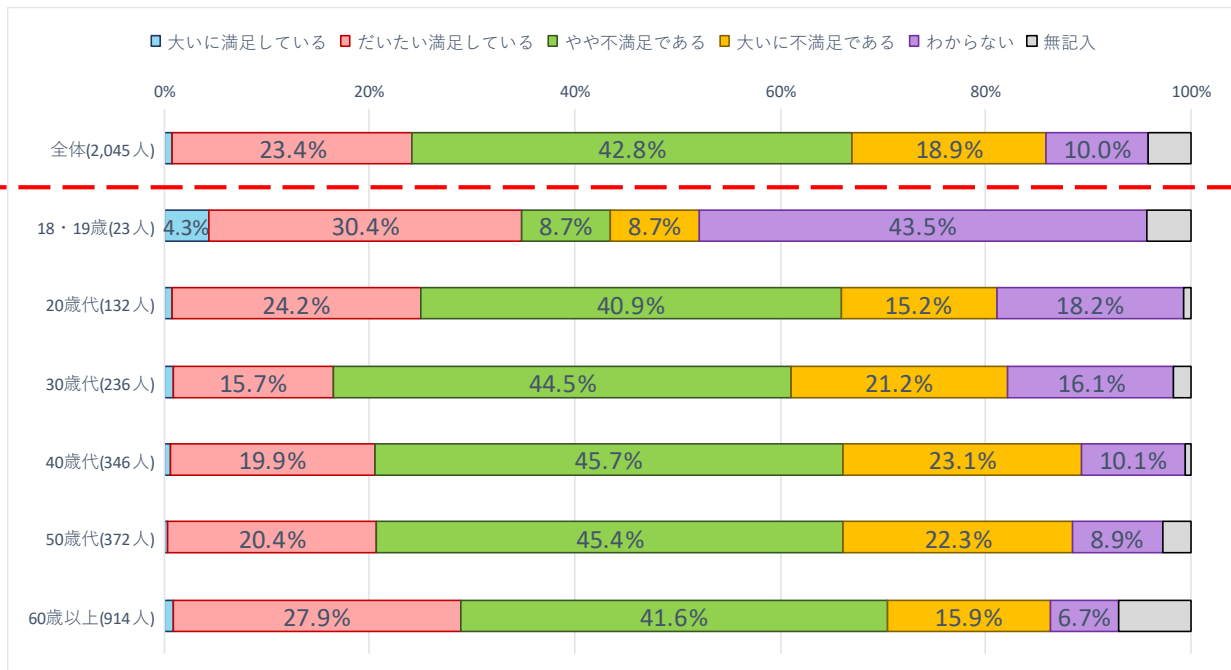


ふだん政治についてどの程度関心を持っているかについて尋ねたところ、「非常に興味を持っている」と回答したのが18.0%、「多少は関心を持っている」が55.4%、「あまり関心を持っていない」が19.4%、「全く関心を持っていない」が2.6%であった。

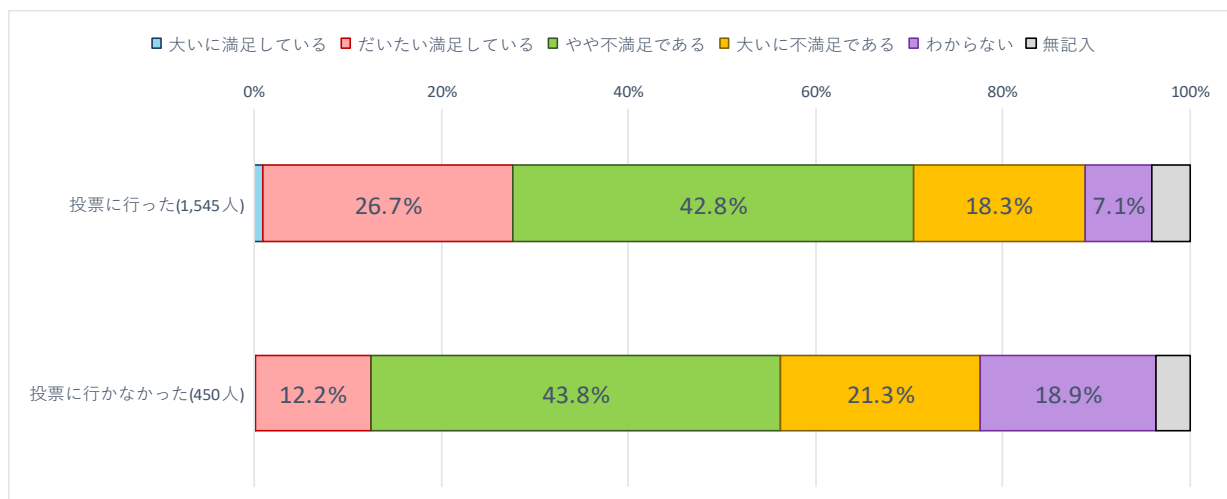
また、年齢層別でみると、20歳代以上の年齢層においては「多少は関心を持っている」割合が多いものの、年齢層が下がるにつれて「あまり関心を持っていない」、「全く関心を持っていない」割合が高くなっており、18歳・19歳については全体の6割を超えている。

投票の有無別でみると、投票に行ったと回答した人は、「非常に興味を持っている」や「多少は関心を持っている」という回答が多く、投票に行かなかったと回答した人は「多少は関心を持っている」という回答が最も多かったものの、「あまり関心を持っていない」と「全く関心を持っていない」を合わせると4割を超えている。

【問 6】 現在の政治に対してどの程度満足していますか。



【6－3】 神栖市長選挙の投票の有無において、現在の政治に対しての満足度の違い

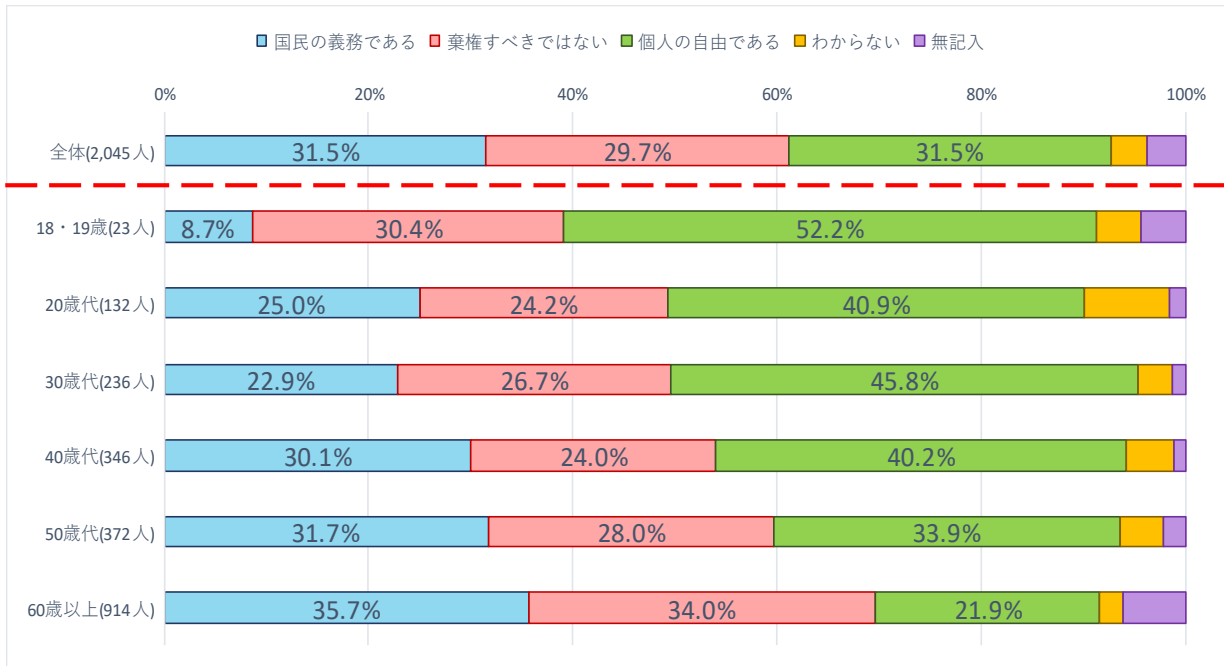


現在の政治に対してどの程度満足しているかについて尋ねたところ、「大いに満足している」と回答したのは0.8%、「だいたい満足している」が23.4%、「やや不満足である」が42.8%、「大いに不満足である」18.9%であった。

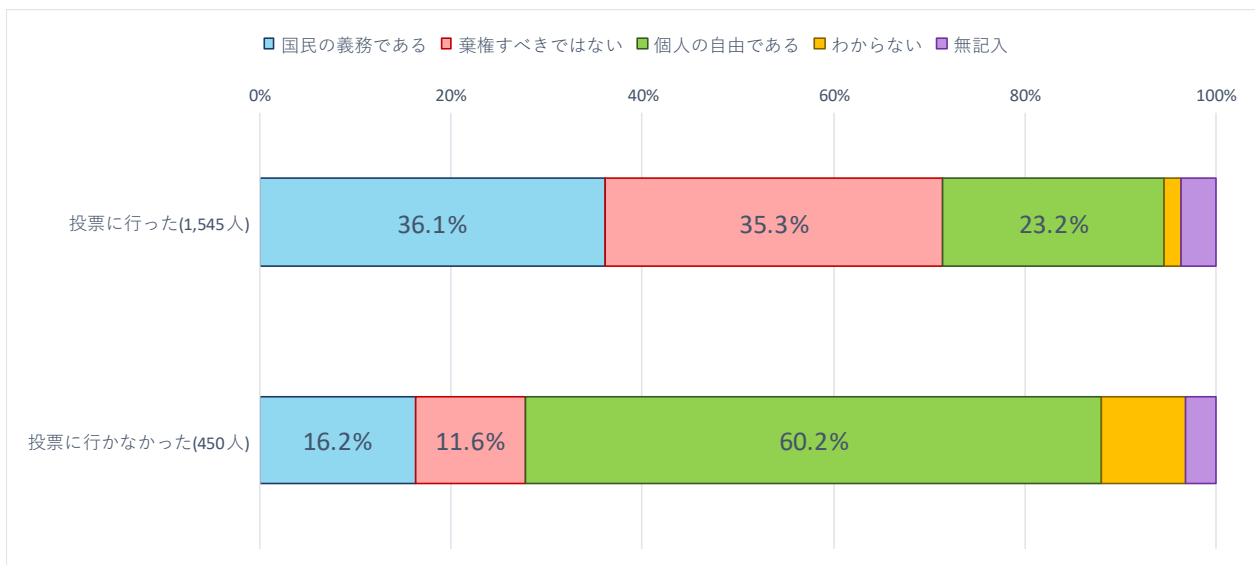
また、年齢層別でみると、18歳・19歳では「わからない」が43.5%と高く、20歳代以上の年齢層では「やや不満足である」の割合が最も高くなっている。

投票の有無別でみると、投票に行ったと回答した人、投票に行かなかったと回答した人、いずれにおいても、現在の政治に対して「やや不満足である」という回答が多く、また、「大いに不満足である」を合わせると6割を超えている。

【問 7】 ふだんの選挙の投票について、次のうち、どれに近い考えを持っていますか。



【7－3】 神栖市長選挙の投票の有無において、投票に対する考え方の違い

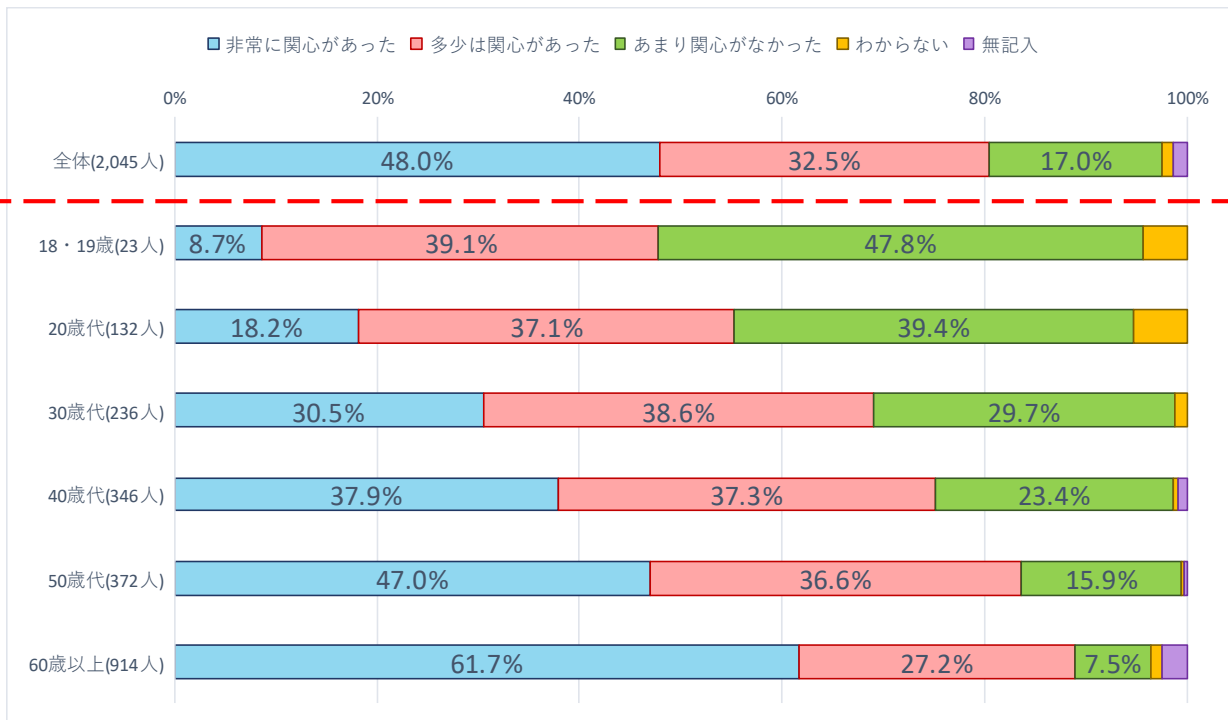


選挙の投票についての考えを尋ねたところ、「国民の義務である」と回答したのは31.5%、「棄権すべきではない」が29.7%、「個人の自由である」が31.5%であった。

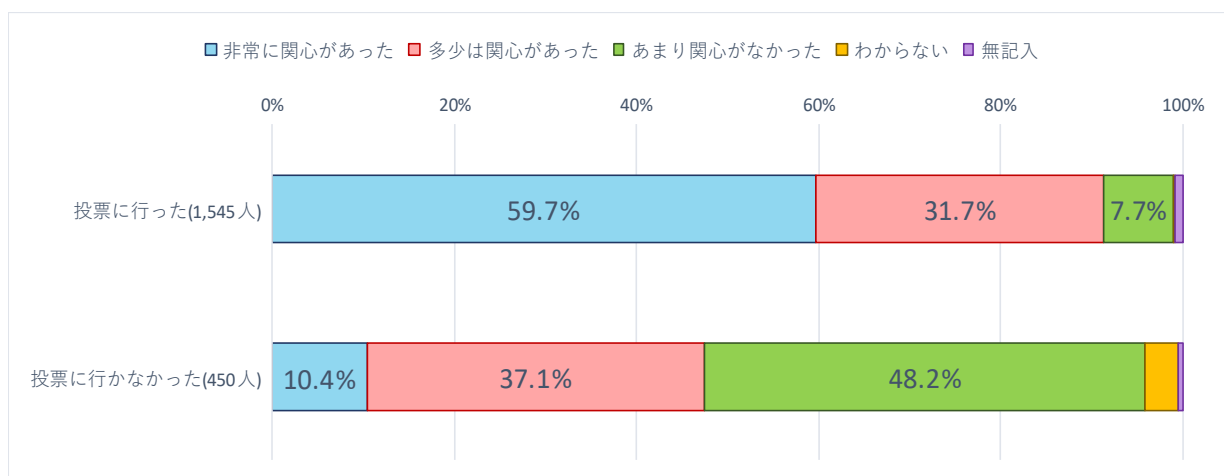
また、年齢層別でみると、「個人の自由である」と回答したのは18歳・19歳の割合が最も高く、次いで30歳代の割合が高くなっており、そこから年齢層が上がるにつれて割合が低くなる。一方、「国民の義務である」「棄権すべきではない」と回答する割合が年齢層が上がるにつれて高くなっている。

投票の有無別でみると、投票に行ったと回答した人は、「国民の義務である」や「棄権すべきではない」という考えが多く、投票に行かなかったと回答した人は、「個人の自由である」という考えが多かった。

【問 8】 令和 3 年 1 1 月 7 日に執行した神栖市長選挙について、どれくらい関心がありましたか。



【 8 - 3 】 神栖市長選挙の投票の有無において、選挙に関する関心度の違い

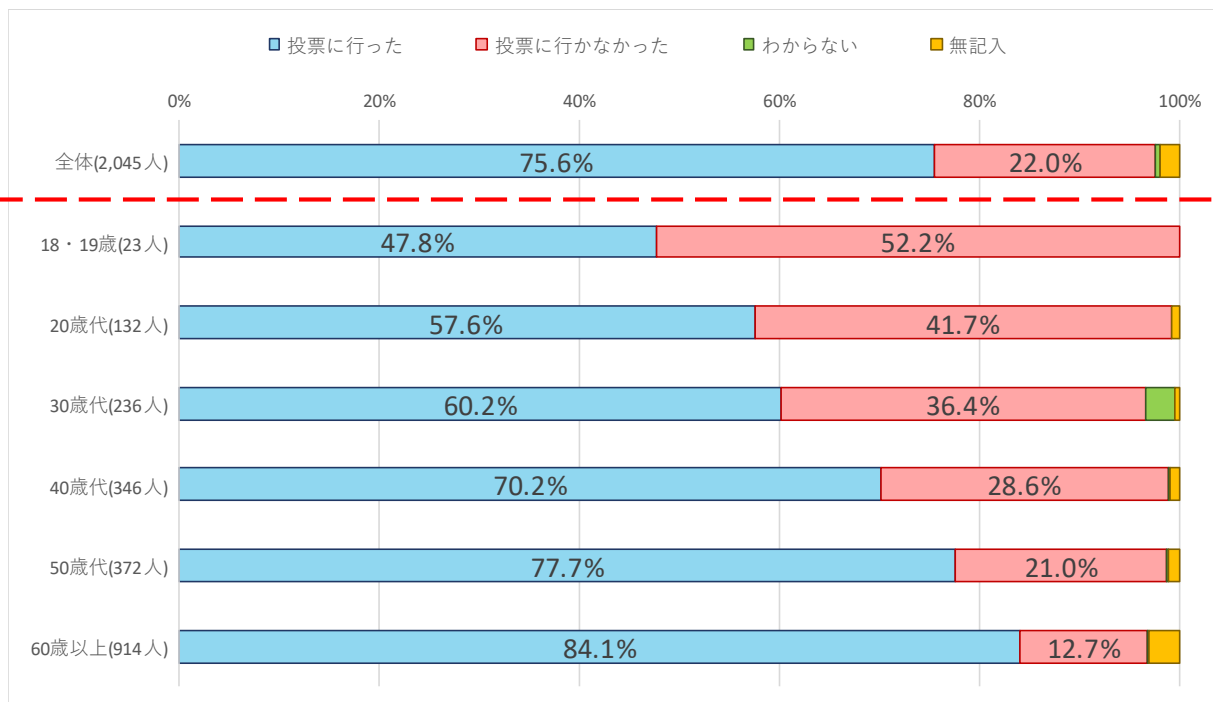


令和 3 年 1 1 月 7 日執行の神栖市長選挙は、どれくらい関心があったか尋ねたところ、「非常に関心があった」と回答したのは 4 8 . 0 % , 「多少は関心があった」が 3 2 . 5 % , 「あまり関心がなかった」が 1 7 . 0 % であった。

また、年齢層別でみると、「非常に関心があった」や「多少は関心があった」と回答した人は、年齢層が上がるにつれて割合が高くなっている。

投票の有無別でみると、投票に行ったと回答した人では、「非常に関心があった」と「多少は関心があった」を合わせると 9 1 . 4 % と多く、投票に行かなかったと回答した人では、「あまり関心がなかった」が 4 8 . 2 % と最も多かった。

【問 9】 神栖市長選挙では投票に行きましたか。

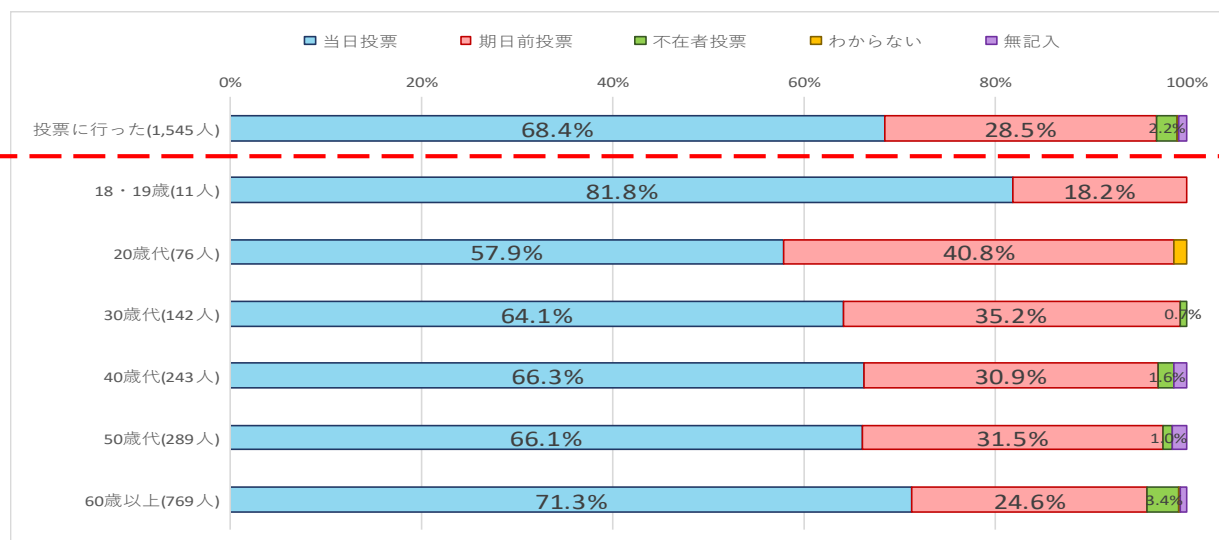


神栖市長選挙の投票の有無について尋ねたところ、「投票に行った」と回答したのは75.6%、「投票に行かなかった」が22.0%であった。

また、年齢層別でみると、「投票に行った」と回答した人は年齢層が上がるにつれて割合が高かった。

【問 10】 神栖市長選挙では、どの方法で投票しましたか。

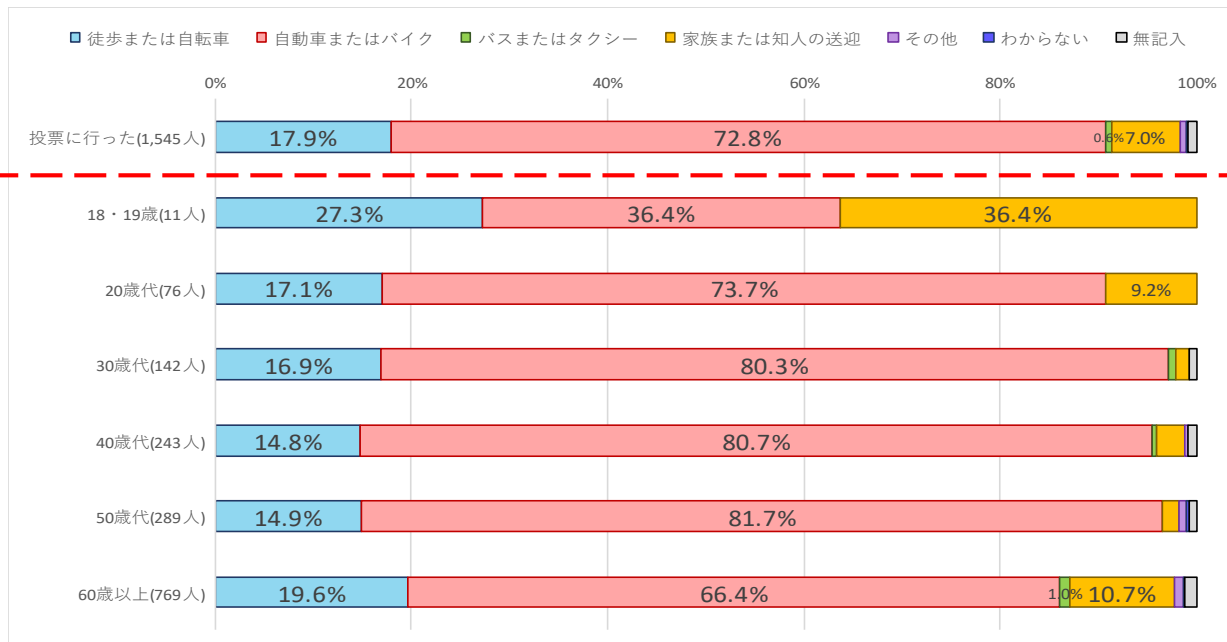
※問 9 で神栖市長選挙において「投票に行った」と回答した人のみ回答



「投票に行った」と回答した人に対して、今回の選挙の投票方法について尋ねたところ、「当日投票」と回答したのは68.4%、「期日前投票」が28.5%、「不在者投票」が2.2%であった。また、年齢層別でみると、20歳代から50歳代までは、「期日前投票」とした回答が、他の年齢層に比べて多かった。

【問 11】 どのような交通手段で投票所に行きましたか。

※問 9 で神栖市長選挙において「投票に行った」と回答した人のみ回答



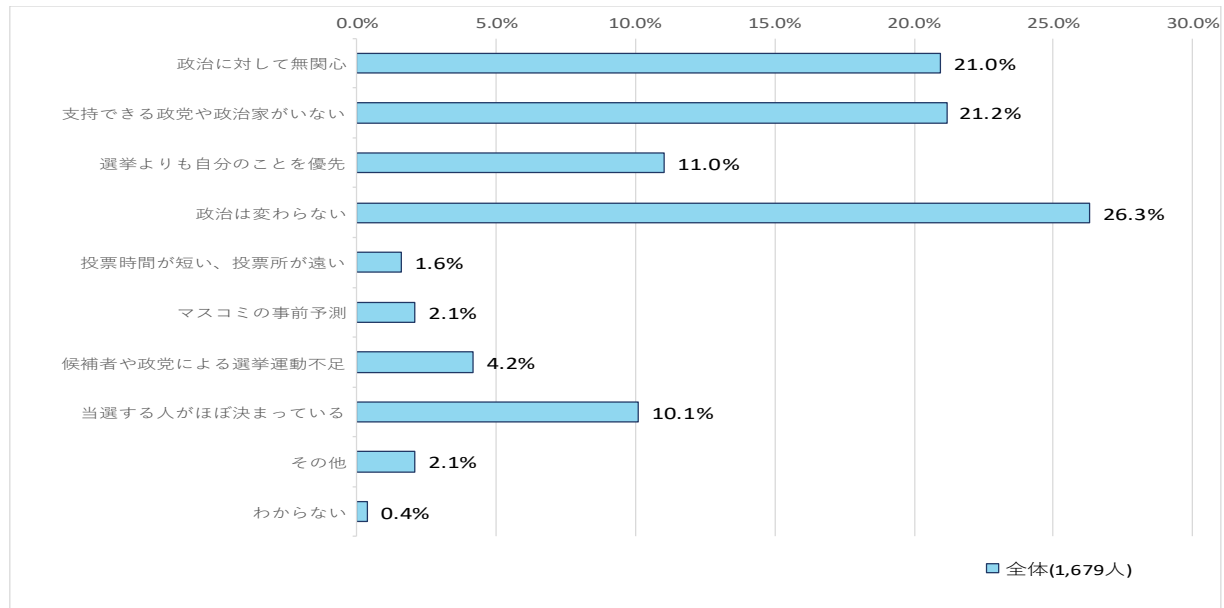
「投票に行った」と回答した人に対して、今回の選挙の投票所への交通手段について尋ねたところ、「徒歩または自転車」と回答したのは17.9%、「自動車またはバイク」が72.8%、「バスまたはタクシー」が0.6%、「家族または知人の送迎」が7.0%であった。

また、年齢層別でみると、どの年齢層においても「自動車またはバイク」と回答した人が多いものの、18歳・19歳においては、「家族または知人の送迎」も36.4%と多く、「自動車またはバイク」と回答した割合と同数であった。60歳以上においては、「自動車またはバイク」の割合が他の年齢層に比べ低く、「徒歩または自転車」や「家族または知人の送迎」の割合が高くなっている。

令和 3 年度に執行した 3 つの選挙に関する集計結果

【問 1 2】 近年の投票率が極めて低い理由は何だと思いますか。（複数回答可）

※問 9 で 3 つの選挙において 1 つでも「投票に行った」と回答した人のみ回答



■年代別の上位 3 項目

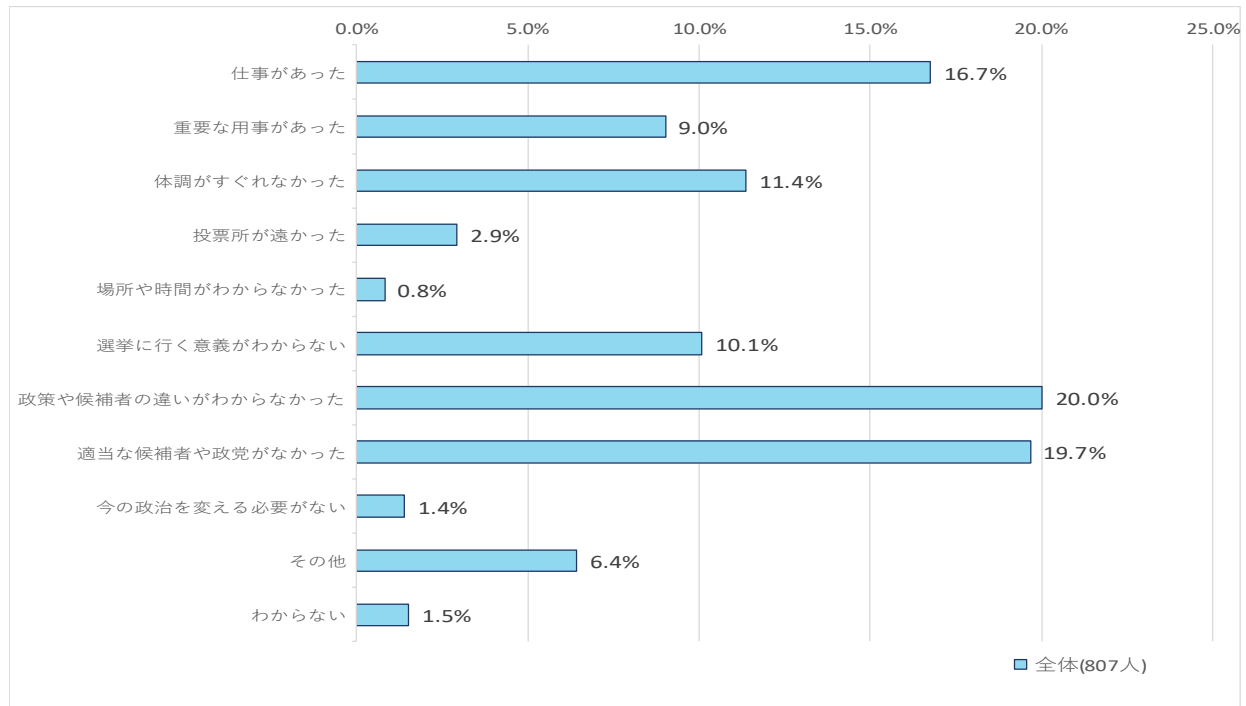
18・19歳	政治に対して無関心	27.0%
	選挙よりも自分のことを優先	24.3%
	政治は変わらない	18.9%
20歳代	政治は変わらない	21.4%
	政治に対して無関心	20.7%
	支持できる政党や政治家がない	20.7%
30歳代	政治は変わらない	24.4%
	政治に対して無関心	20.9%
	支持できる政党や政治家がない	20.9%
40歳代	政治は変わらない	25.8%
	支持できる政党や政治家がない	23.0%
	政治に対して無関心	19.8%
50歳代	政治は変わらない	28.8%
	支持できる政党や政治家がない	22.0%
	政治に対して無関心	21.2%
60歳以上	政治は変わらない	26.9%
	政治に対して無関心	21.3%
	支持できる政党や政治家がない	20.4%

「投票に行った」と回答した人に対して、近年の投票率が極めて低い理由は何だと思うか尋ねたところ、投票しても「政治は変わらない」と回答したのは26.3%で、どの年齢層においても共通して多く、次いで「支持できる政党・政治家がない」が21.2%、「政治に対して無関心」が21.0%、「選挙より自分のことを優先」が11.0%であり、これらの回答が多かった。

また、年齢層別にみると、18歳・19歳においては、他の年齢層と比べて、「政治に対して無関心」や「選挙より自分のことを優先」の割合が高くなっている。

【問 13】 投票に行かなかったのは、なぜですか。(複数回答可)

※問 9 で 3 つの選挙において 1 つでも「投票に行かなかった」と回答した人のみ回答



■年代別の上位 3 項目

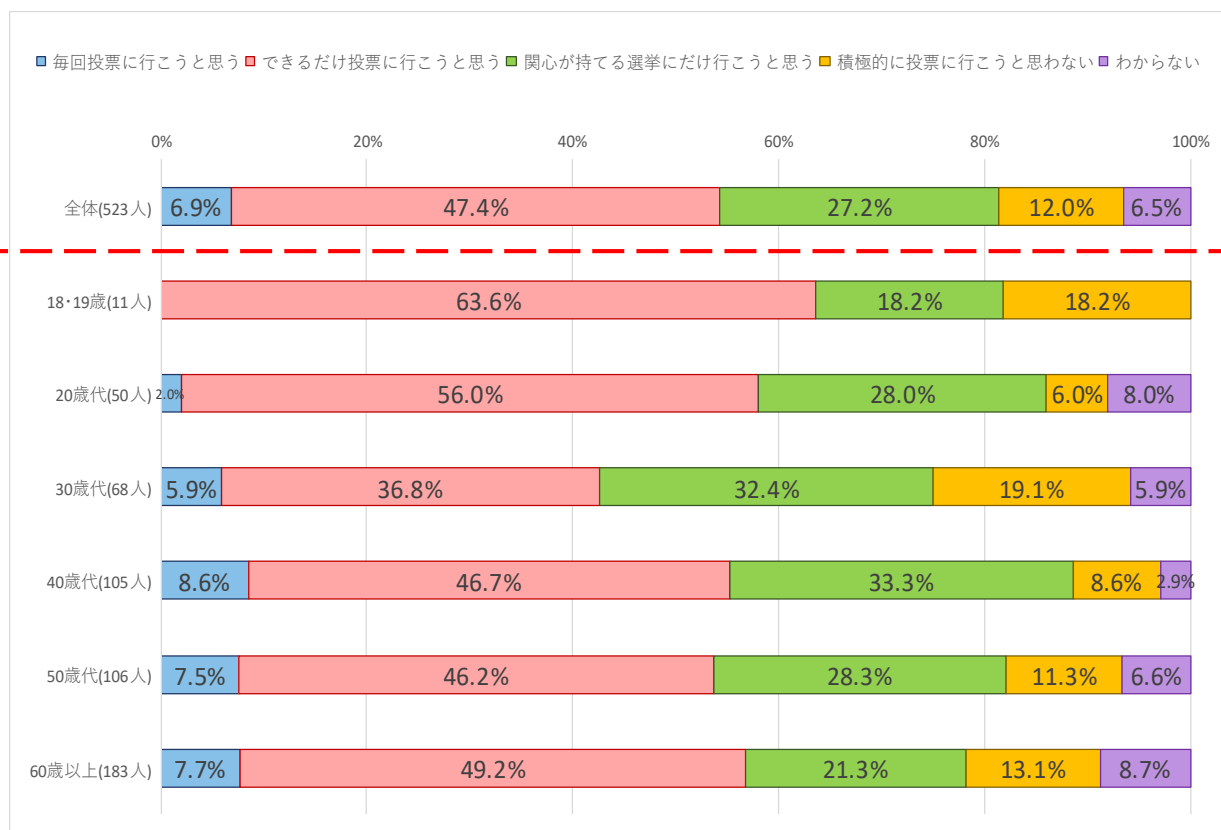
18・19歳	重要な用事があった	19.0%
	選挙に行く意義がわからない	19.0%
	政策や候補者の違いがわからなかった	19.0%
20歳代	仕事があった	28.0%
	政策や候補者の違いがわからなかった	14.0%
	選挙に行く意義がわからない	12.9%
30歳代	仕事があった	20.7%
	政策や候補者の違いがわからなかった	20.7%
	選挙に行く意義がわからない	20.0%
40歳代	適当な候補者や政党がなかった	21.3%
	仕事があった	19.7%
	政策や候補者の違いがわからなかった	19.7%
50歳代	適当な候補者や政党がなかった	26.3%
	仕事があった	20.6%
	政策や候補者の違いがわからなかった	20.0%
60歳以上	政策や候補者の違いがわからなかった	22.3%
	適当な候補者や政党がなかった	20.6%
	体調がすぐれなかった	17.4%

「投票に行かなかった」と回答した人に対して、なぜ行かなかったか尋ねたところ、「政策や候補者の違いがわからなかった」が20.0%で最も多く、次いで「適当な候補者や政党がなかった」が19.7%、「仕事があった」が16.7%、「体調がすぐれなかった」が11.4%であり、これらの回答が多かった。

また、年齢層別にみると、18歳・19歳においては、他の年齢層と比べて、「重要な用事があった」や「選挙に行く意義がわからない」と回答した人の割合が高くなっている。

【問 1 4】 今後の選挙についての意向を教えてください。

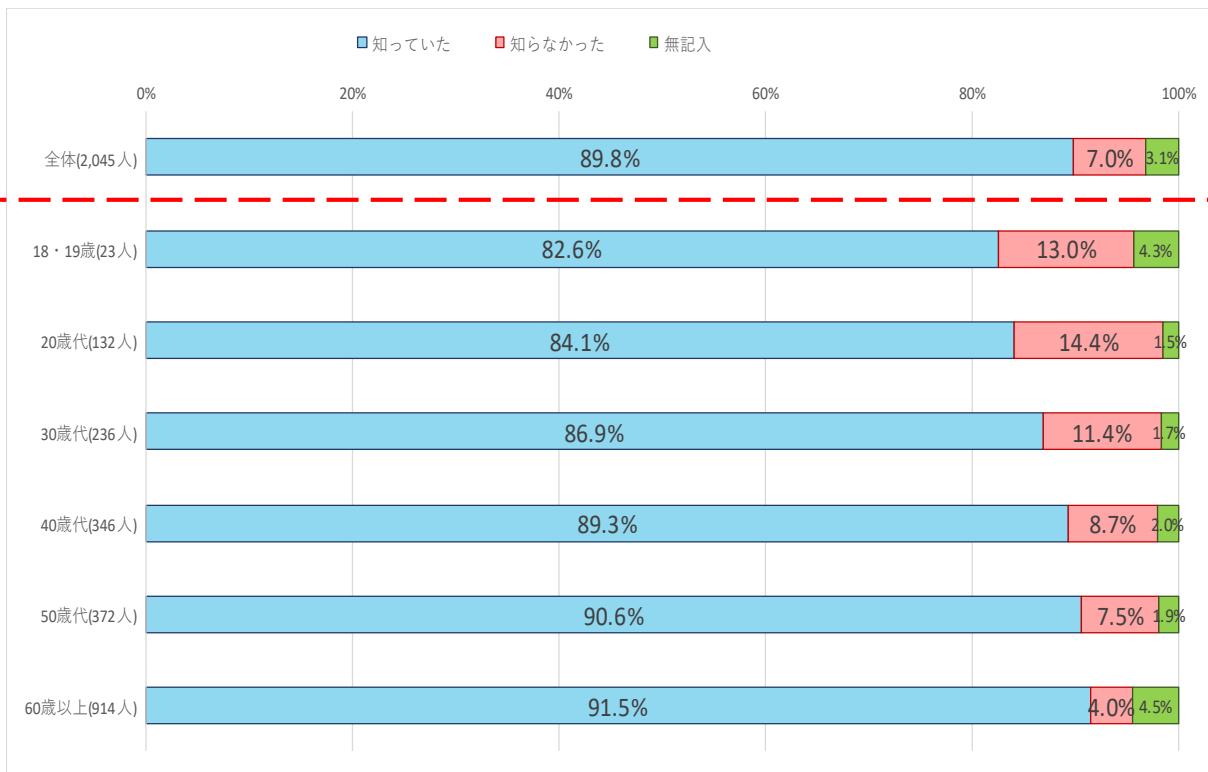
※問 9 で 3 つの選挙において 1 つでも「投票に行かなかった」と回答した人のみ回答



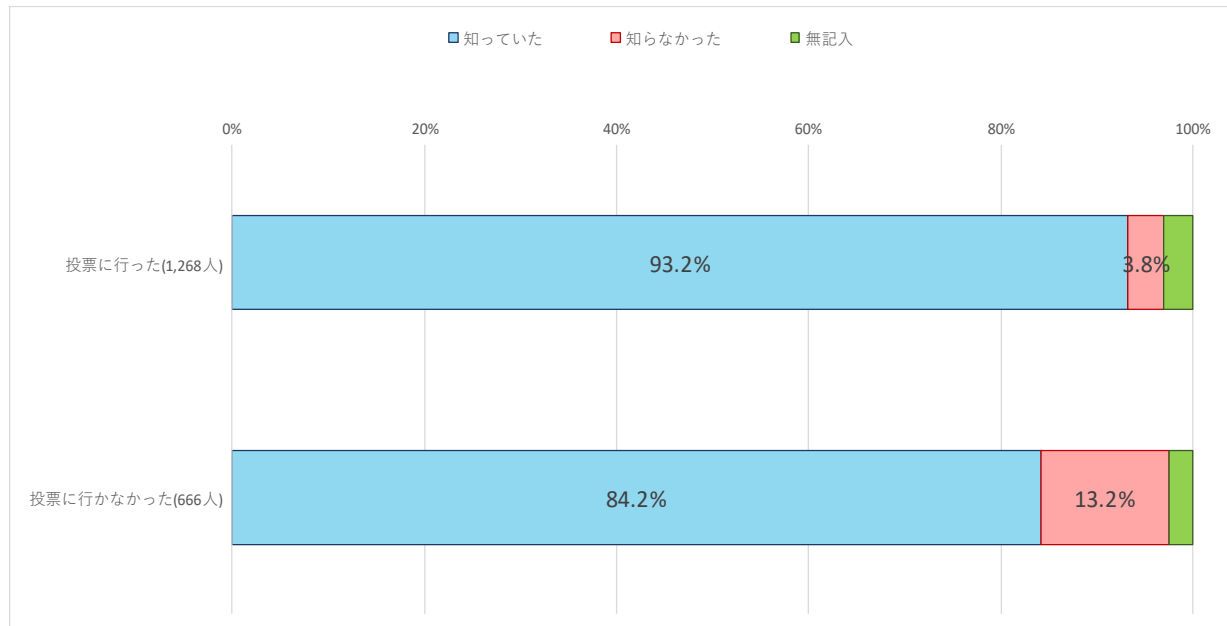
今後の選挙についての意向を尋ねたところ、「毎回投票に行こうと思う」と回答したのは6.9%、「できるだけ投票に行こうと思う」が47.4%、「関心が持てる選挙にだけ行こうと思う」が27.2%、「積極的に投票に行こうと思わない」が12.0%であった。

また、年齢層別にみると、どの年齢層でも「できるだけ投票に行こうと思う」と回答した人の割合が最も高くなっているが、18歳・19歳においては、「毎回投票に行こうと思う」はなかった。また、18歳・19歳と30歳代においては、「積極的に投票に行こうと思わない」の割合が18%を超えており、他の年齢層と比較して高い割合となっている。

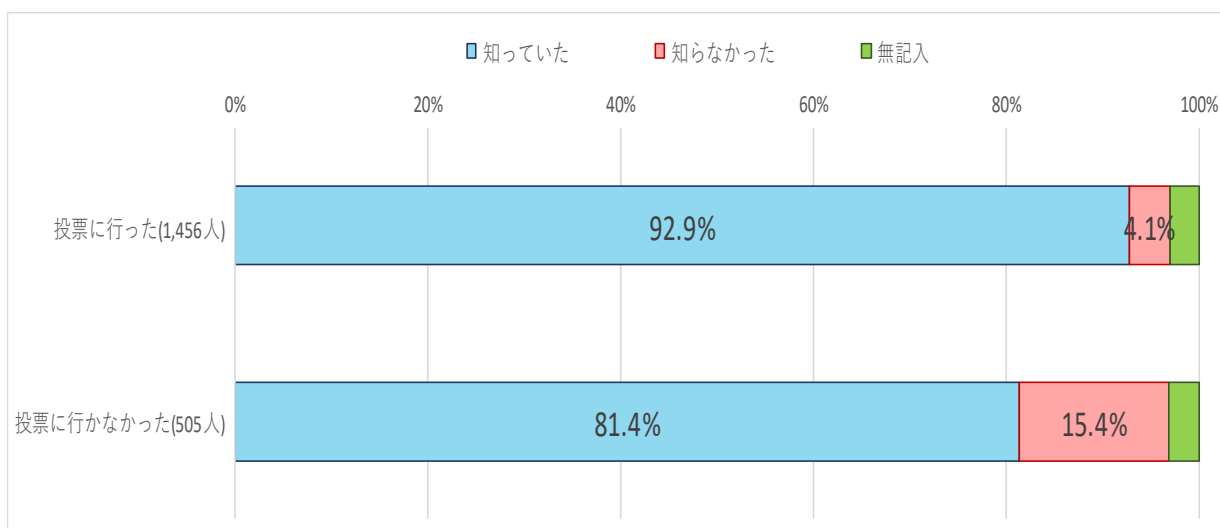
【問 15】 選挙では、公（告）示日の翌日から投票日前日まで「期日前投票」をおこなっていました。神栖市役所や波崎総合支所では、その間、午前 8 時半から午後 8 時まで期日前投票をすることができたことを知っていましたか。



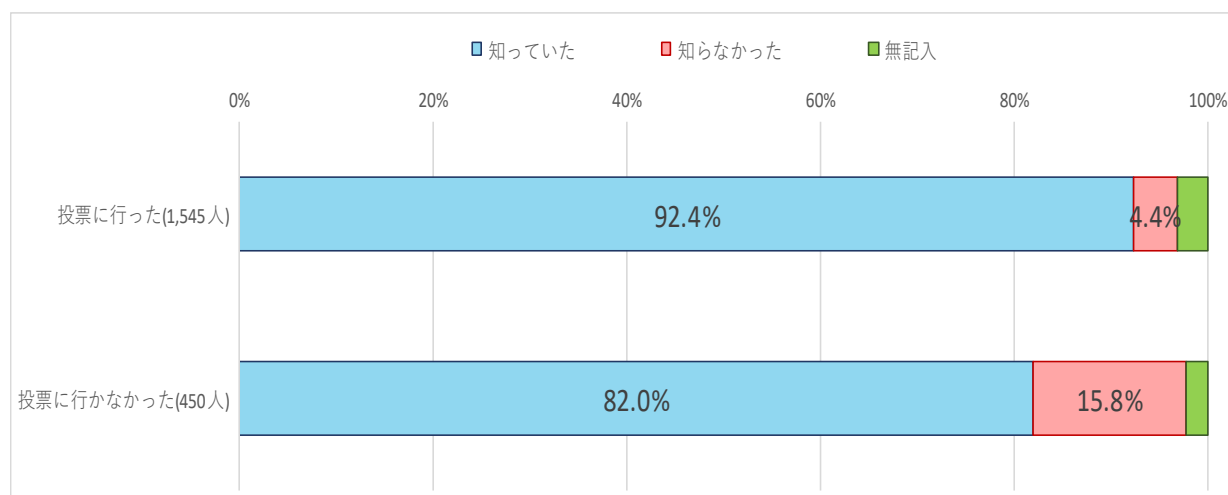
【15－1】 茨城県知事選挙の投票の有無における，期日前投票の浸透度



【15-2】 衆議院議員総選挙の投票の有無における，期日前投票の浸透度



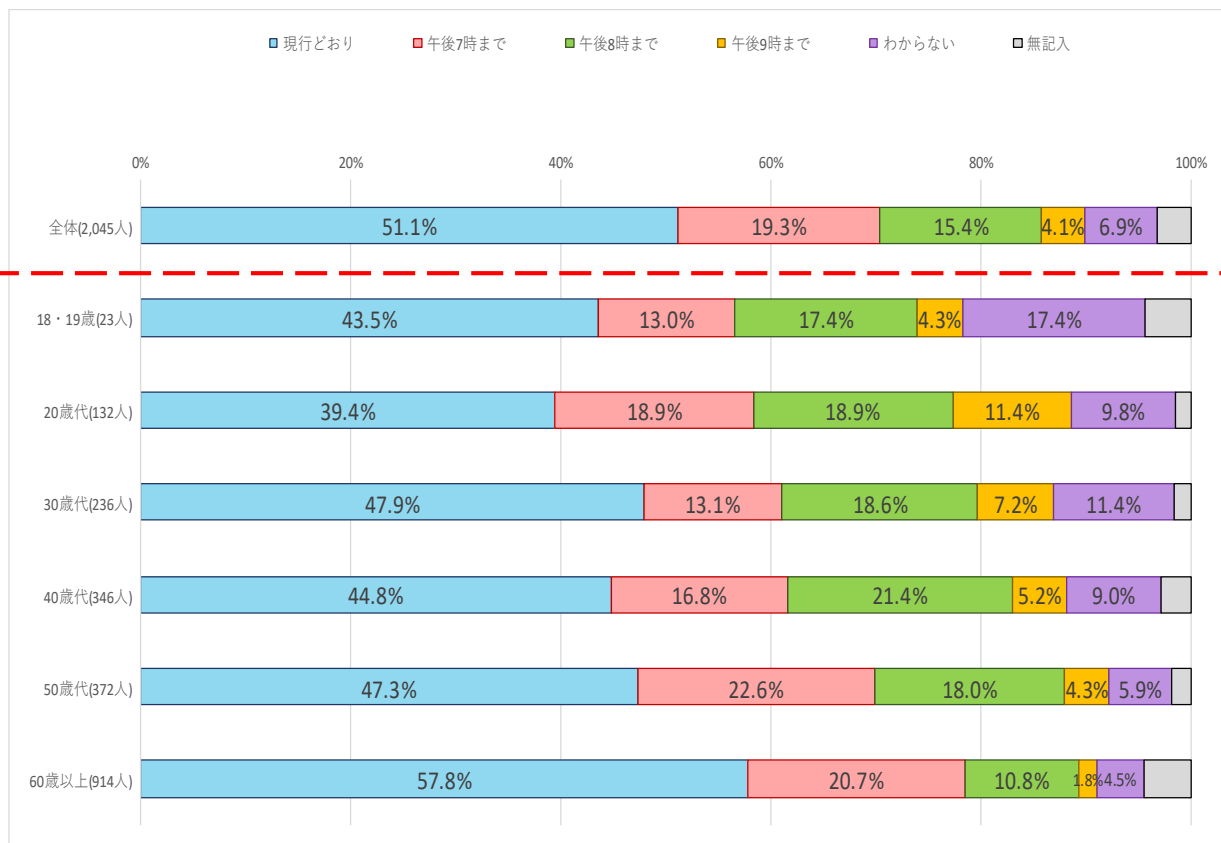
【15-3】 神栖市長選挙の投票の有無における，期日前投票の浸透度



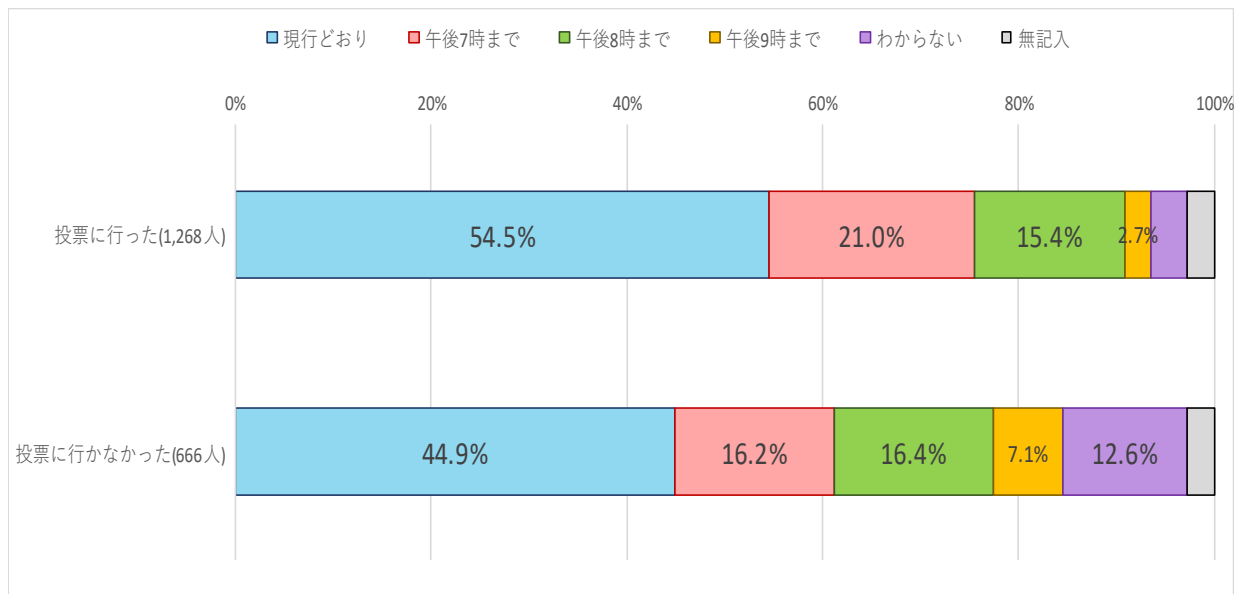
選挙では公(告)示日の翌日から投票日の前日までの間，午後8時まで期日前投票をすることができたことを知っていたかについて尋ねたところ，「知っていた」と回答したのは89.8%，「知らなかった」が7.0%であり，18歳・19歳や20歳代において「知っていた」の割合が若干低いものの，多くの人が投票日当日以外にも期日前投票ができることを知っているようであった。

それぞれの選挙の投票の有無別でみると，どの選挙においても投票の有無にかかわらず「知っていた」と回答した割合は高かった。ただし，投票に行ったと回答した人で「知らなかった」と回答した人は県知事選で3.8%，衆院選で4.1%，市長選で4.4%だったのに対し，投票に行かなかったと回答した人で「知らなかった」と回答した人は県知事選で13.2%，衆院選で15.4%，市長選で15.8%と多くなっている。

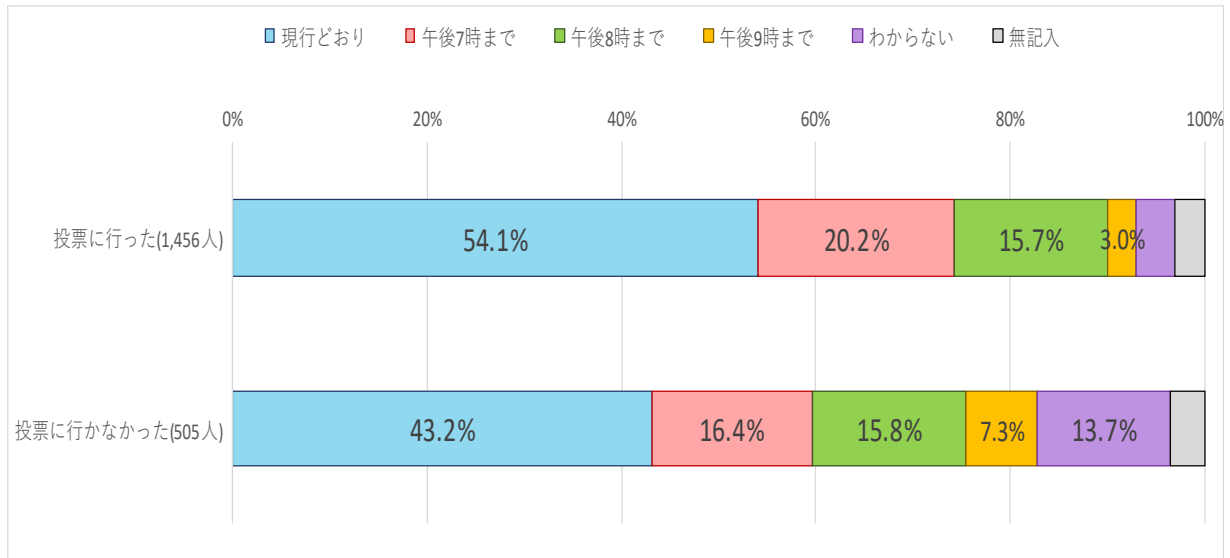
【問 1 6】 神栖市でおこなう選挙では、投票日の投票所の閉鎖時刻は午後 6 時でしたが、何時まで開所しているのがふさわしいと考えますか。



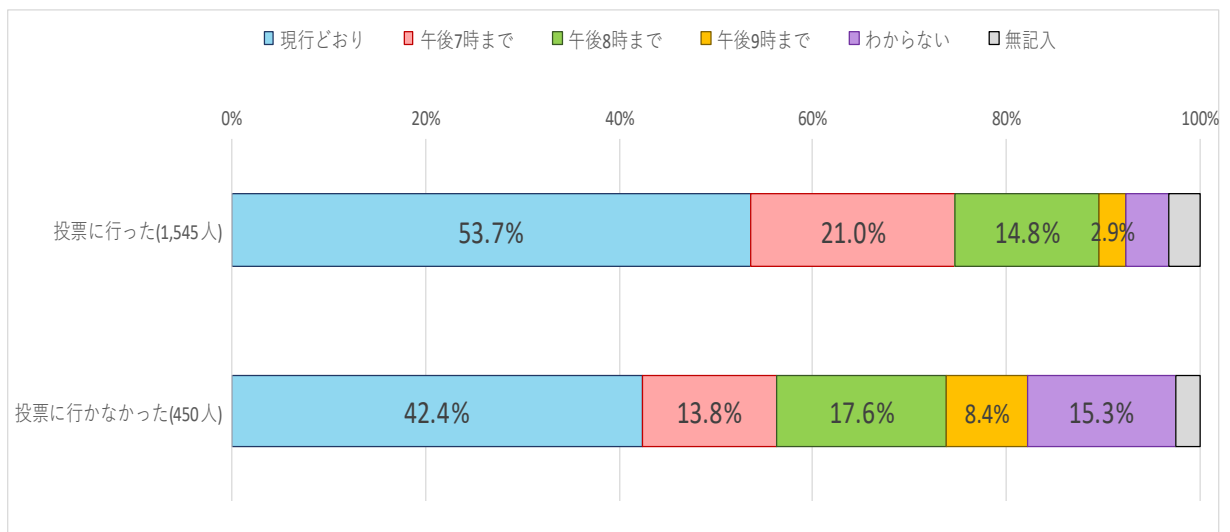
【1 6－1】 茨城県知事選挙の投票の有無における、投票所閉鎖時刻に対する意見



【16-2】 衆議院議員総選挙の投票の有無における、投票所閉鎖時刻に対する意見



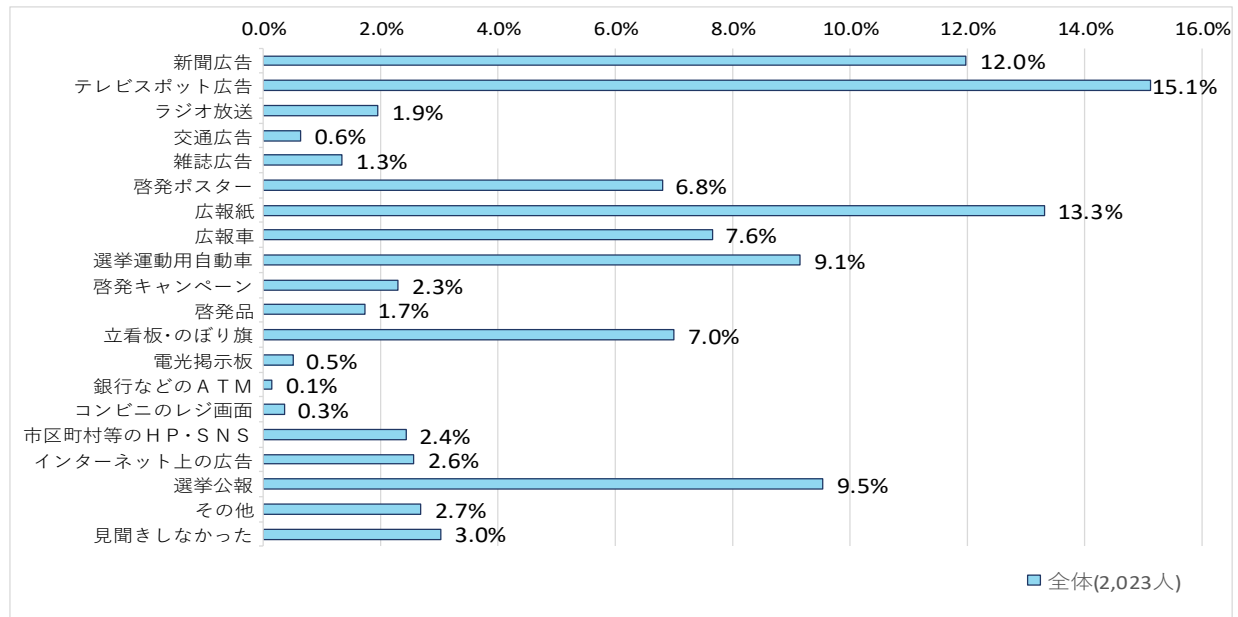
【16-3】 神栖市長選挙の投票の有無における、投票所閉鎖時刻に対する意見



神栖市でおこなう選挙では、投票日の投票所の閉鎖時刻は午後6時でしたが、何時まで開所しているのがふさわしいかと尋ねたところ、「現行どおり」と回答した人は51.1%、「午後7時まで」が19.3%、「午後8時まで」が15.4%、「午後9時まで」が4.1%であった。

それぞれの選挙の投票の有無別でみると、どの選挙においても投票の有無にかかわらず「現行どおり」の割合が高かった。なお、どの選挙においても投票の有無にかかわらず「午後7時まで」及び「午後8時まで」と回答した人の合計は、全体の3割を超えている。

【問 17】 3つの選挙で総務省や都道府県，市区町村の選挙管理委員会などが「投票に参加しましょう」と呼びかけを行っていましたが，見たり聞いたりしたものはありますか。（複数回答可）



■年代別の上位3項目

18・19歳	テレビスポット広告	14.8%
	広報紙	13.0%
	啓発ポスター	11.1%
20歳代	テレビスポット広告	14.2%
	インターネット上の広告	11.6%
	市区町村等のHP・SNS	9.3%
30歳代	テレビスポット広告	14.8%
	選挙運動用自動車	11.9%
	広報紙	10.6%
40歳代	テレビスポット広告	17.1%
	選挙運動用自動車	11.5%
	広報紙	11.0%
50歳代	テレビスポット広告	17.3%
	広報紙	12.7%
	新聞広告	11.1%
60歳以上	新聞広告	15.5%
	広報紙	15.4%
	テレビスポット広告	13.9%

3つの選挙で「投票に参加しましょう」という呼びかけについて，見たり聞いたりしたもののについて尋ねたところ，「テレビスポット広告」と回答したのは15.1%，次いで「広報紙」が13.3%，「新聞広告」が12.0%，「選挙公報」が9.5%，「選挙運動用自動車」が9.1%であり，これらの回答が多かった。

また，年齢層別にみると，年齢層が上がるにつれて，「新聞広告」や「広報紙」などの紙媒体の選択率が高く，若年層は「インターネット上の広告」や「市区町村等のHP・SNS」の選択率が高かった。

【問 18】 最近の選挙結果によると、特に若年層の投票率が低くなっています。投票率アップの方策があれば、ご提案をお願いします。（自由記述）

【主な回答】

■投票環境

- スマートフォンなどでインターネット投票
- 期日前投票所の増設
- スーパー、ドラッグストア、コンビニなどに投票所を設置
- 高齢者施設（デイサービスなど）に投票所を設置
- どこの投票所でも投票できるようにする（共通投票所の設置）
- 投票所やその施設内に子どもが遊べる場所を確保
- タッチパネルでの投票
- 投票所で BGM を流す

■啓発活動

- SNS（Twitter、TikTok など）を活用した啓発
- テレビ・ラジオを活用した啓発
- 防災行政無線で前回の投票率の低さを伝える
- 子どもと一緒に投票所へ行けることを周知する
- 子どもへの来場プレゼントを配布

■クーポン・景品・ポイント

- 割引クーポンの配布
- 投票済証明書で割引サービス
- カミスココくんグッズのプレゼント
- 投票した人の中から抽選で景品がもらえる

■学校教育、家族・職場

- 選挙出前授業の実施
- 授業で模擬投票を実施
- 選挙権を持つ前から、政治意識が高まるような教育環境を作る
- 親が子に対し、実際に選挙に行く姿勢を見せる
- 家庭でも日本・世界の政治・選挙について話し合う
- 職場、家庭で投票の呼びかけを行う

■政治家・候補者

- 選挙運動や PR を活発に行う
- 若い人や女性の意見を取り入れた政策
- 若い世代が候補者になる
- 政治家と直接話し合える場を設ける
- インターネットで公約を簡単に見られる
- 高齢者への施策が多い
- 政党の政策や候補者の人物像・公約を分かりやすくする
- 議会の様子を Youtube で配信する
- 政治家自身が、若年層に分かりやすく選挙の必要性を発信する
- 候補者と同じ空間に居た経験があれば今より身近に感じる。学校等を訪問する機会を作る
- 立候補者討論会の開催とウェブ配信
- 政治家の定年制

■その他

- 投票したら抽選で政治家に直接インタビュー（政策、政治家になった理由）できる
- 投票立会人を若い世代の方に依頼する
- 入場整理券のデジタル化
- 市外転出者の住民票の移動
- 投票の義務化
- 投票しなかった人への罰則

【問19】 今回のアンケートへの感想・その他選挙や政治に関して何かご意見があれば記述してください。

【主な回答】

- 政治の資質が全般的に低く感じて投票に行く気にならない
- 国会議員の人数が多すぎる
- 立候補者への誹謗中傷のようなチラシが不快に感じた
- 政治、選挙の関心を持たせる工夫をしてほしい
- 若年層が投票に行くためにも政策を分かりやすく提示してほしい
- 市民の声をもっとよく聞いてほしい
- 若年層へプラスになるような政策を考えてほしい
- 駐車場から投票会場まで距離があり、高齢者に不親切である
- 子育て支援を強化してほしい
- 税金をもっと有効に使ってほしい
- 立会人が多すぎて監視されているようだった
- コロナ禍のため、選挙に行きたくても行けなかった
- 移動投票は良かったのでこれからも続けてほしい
- 期日前投票に理由は不要ではないか
- 交通の便がとても悪いと感じた
- メルマガで選挙の候補者が見れるようになるといい
- アンケートはこれからも毎年やってほしい
- 投票率を上げるためにこれからもアンケートを続けてほしい
- 選挙カーの声が大きすぎる
- 議会でやっていることを分かりやすくしてほしい
- 若者が選挙に行って生活がどう変わるのかいまいち分からない
- 応援者に選挙に行くように言われていて、行きたくなかった
- 今の市政の継続を願う

おわりに

本調査では、当市において選挙の投票率が低下し続ける要因及び有権者の特性の把握・分析を行ってきた。調査結果からは、政治への関心の低さや、政治に対する不満や不振などの傾向がうかがえ、それが低投票率につながっていると分析できる。特に、若年層ほど、政治に対しての関心の度合いが低いため、投票率向上に向け、これらの問題に対する対策が必要となる。

これまで選挙管理委員会では、選挙のたびに広報紙や新聞折込による周知、行政区回覧や防災行政無線などによる選挙啓発を行ってきた。これらは、年齢が上がるにつれて紙媒体での情報収集率が高い傾向があることから、今後も継続していく必要があるが、特に若年層には、こうした周知方法では情報が行き届かないことが、今回の調査でも明らかとなった。ツイッターやメールマガジンなどのSNSを活用し、若年層が普段から使用しているツールを使った選挙啓発が求められている。

政治関心度に関する問いでは、全体で「あまり関心を持っていない」が19.4%、「全く関心を持っていない」が2.6%だったが、若年層をみると「あまり関心を持っていない」が18歳・19歳では47.8%、20歳代では37.9%だった。「全く関心を持っていない」と回答したのは、18歳・19歳では17.4%、20歳代では5.3%であり、特に若年層の政治への関心の低さがうかがえる結果となった。全ての年齢層に共通して言えるが、政治への関心の低さについては、メディア、特にSNSをはじめとする映像や報道を通じて、スキャンダルなど、「政治家」のネガティブな姿が起因となり、「政治」に対する不信や不満へつながっていると推測する。

政治満足度に関する問いでは、18歳・19歳で最も多かった回答が「わからない」だった。有権者となったばかりの若者にとって、政治一般に関する満足度を問われても、自分の生活と政治とが結びついておらず、このような結果が現れているのであろうと想像する。結果として、「選挙よりも自分のことを優先」することになるのだろう。

また、これまで投票する機会が少なかった若年層の有権者にとって、「政策や候補者の違い」や、「誰に投票すべきか」など、投票することに対する不安を抱え、その不安が投票行動につながらない一つの要因と考える。どの候補者・政党等の公約が、自分や自分の家族の生活をよくするものなのかを見極め、最終的にどの候補者・政党等に投票するか、相談できるのは家庭であるのではないか。家族内で政治や選挙について、普段から話し合う機会が増えれば、その不安が取り除かれ、投票行動へつながると考える。

交通手段の問いでは、当市のような車社会の地域においては、全体の7割以上が「自動車またはバイク」と回答している。18歳・19歳をみると「家族または知人の送迎」と回答したのが全体の2割から3割となっており、他の年齢層とは突出して異なる結果だった。ここでも家族との関わりが重要であることがうかがえる。

選挙で投票することに関しては、「投票すべきである」「棄権すべきでない」と認識している一方で、「(自分が投票しても)政治は変わらない」という意見も多く、自分の一票がその後の政治・政策に反映されることを期待していない傾向がうかがえる。「自分たちのまち・国の政治を動かす」のは、選挙で選ばれた政治家ではなく、自分たちであるという主権者としての意識が薄れ、投票行動につながらないことが、投票率の低下につながっている。これ以上投票率を低下させないためにも、近い将来に有権者となる小・中学生、高校生に対する主権者教育を充実させる必要性が高まっているものと考ええる。